
結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
9
Presented by
めいびい

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
めいびい
9

Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

9

Contents

Presented by
MAYBE


帝国首都ギサラス
兵舎前広場
勇敢なる帝国兵士の皆様ごきげんよう
こうしてお時間をいただけてサフィールは嬉しゅうございます
先だっての深淵王との戦い……
そして命を賭して我がマーサを守っていただいたこと
誠に感謝いたしております
ペこり
キラ
キラ
ほんとうにありがとうございました
キラ
はぉ〜っ…!



竜人の姫…なんて可憐なんだ…
美少女すぎる…
どよ…
どよ…
キラ
キラ
キラ
ええーッ…
どうしても皆様に直接お礼を申し上げたいという私の我が儘にお応えいただき
このような場を設けてくださったスリュダー将軍に感謝を……
かねてより帝国とマーサの関わりは――
いや～……こうしてると
本当に・・・お姫様みたいだな
ぼそり
ガッ
痛っ!!
妾の次はお主の番じゃ
しっかり時間を稼ぐのじゃぞ？


第47話



結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


昨晩――帝国の宿
ガばっ
サフィラ!
お姉様…!
どうしてここにおるのじゃ!?
マーサは!?
マーサは大丈夫…
深淵の攻勢も退け今は安定しています
そうかそうか!
指輪王(ゆびわおう)が戻ったと聞いてね
きっと帝国にやってくるだろうと数日前に入っていたんだ


サトウくん
きみが無事で良かった
再びこうして会うことが出来て…
僕は心から嬉しい
ギュッ…
ああ俺もだ
マルスさんが居てくれれば心強いよ


〝指輪王の剣〟
…ですね
他にも力になる物があれば
それも借り受けたいと思っておったが…
ここまで無下に扱われるとはのう
神話遺物庫は世が世なら王権の証たりうる秘宝も収められていると聞きます
ただそれだけではない… 父にとって特別な場所のようなのです
うむ…
案内するとは言いましたが正確な場所は僕も知りません
概ね見当はついているのですが…



みんなで手分けして探すか？
それでは目立ちすぎるよ
しかしあまり時間をかけてもおれん
……
ふふ…妾に良い案があるのじゃ
いっそ目立ってしまえば良い!!


帝国とマーサに
よりよい未来が
ありますよう…
そして
皆様のお力で
どうか世界に安寧を
……ご武運を
お祈りいたします
パチ
パチ
パチ
パチ
オオーーッ
表敬訪問って
いうのか？
こういうの
パチ
パチ
パチ
パチ
パチ
パチ
水の国の姫直々の
申し出なのじゃ
皇帝とて断れまい
これだけ
目を引けば
マルスも
動きやすかろう
しかし
すごい人気だな
サフィールは
帝国のこと
嫌いなんじゃ
なかったのか？
確かに帝国の強引な
やり口は嫌じゃが…
それはそれ
これはこれ
なのじゃ
命を賭けて
戦ってくれた
兵たちには
感謝こそすれ
不満などない
まともな
ことを…
なにより
水の国の礼節を
見せつける
良い機会じゃ


次は指輪王様の挨拶となっていますが…
いずこにおられますか？
あ 俺です
は！てっきり警護の方かと……
ざわっ…
こんにちは
指輪王です


ざわ…
え……？
ざわ…
ざわ…
あいつが…!?
ざわ…
なんだあの普通の挨拶は…!?
やれやれ
王としての振るまいも修業が必要じゃの
マルスさん…
うまくやってくれよ!!

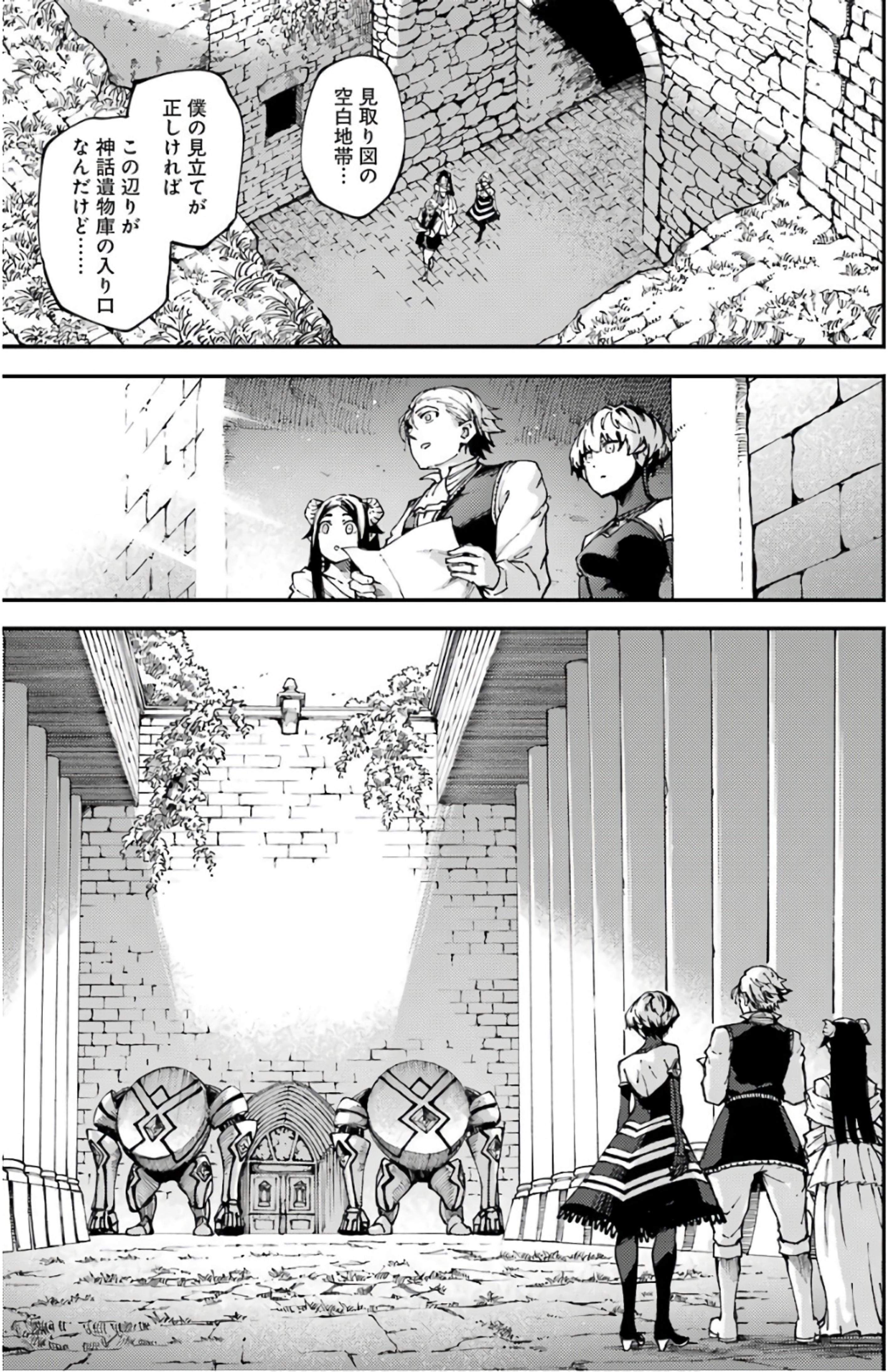

ここを抜ければ城の旧区画…
そのどこかに遺物庫が設けられているはずなんだ

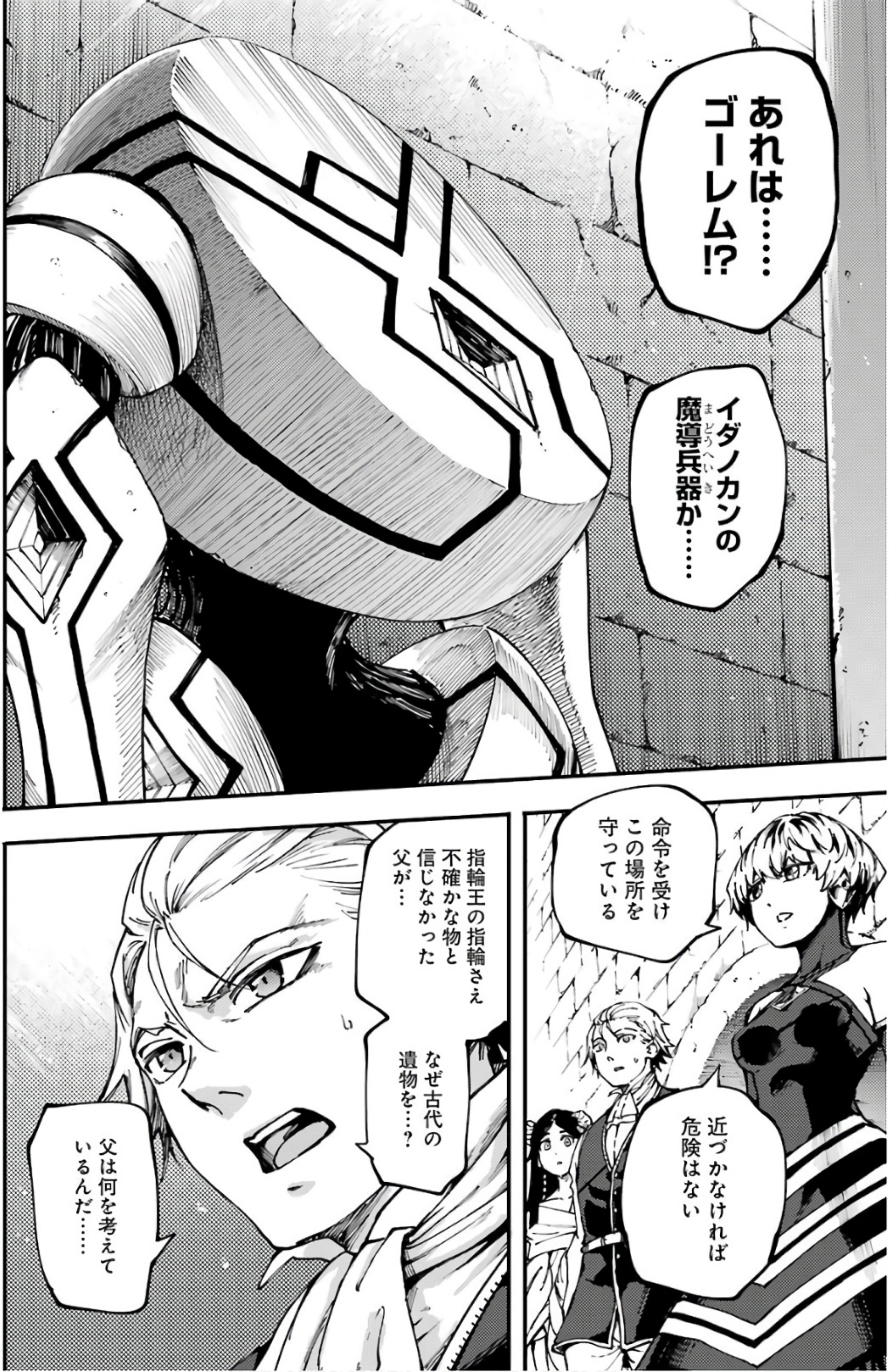

さぁ
足元に
気をつけて
ぴょん
スタ
アンバルは
護衛で
来ている
気を使う
必要はない


スタ
指輪の姫に特別な力があるとはいえ
女性に…
スタ
ぴょんっ
フゥ…
火が消えてしまった
すまない今点け直すから……
カチ カチ
ああっ…困ったな……
暗くてよく見えない…
パァ
ああ…
うん
助かるよ


おっと…
ザッ
見回りか…
サトウくんたちのおかげでかなり手薄になっているとはいえ…
ここで見つかるわけにはいかないな
このままやり過ごそう
…あれ？
アンバル姫は？
はっ


あーーっ!!!
ドズッ
ドズッ
二人くらいなら気付かれることなく仕留められる
この方が安全
今回は偵察だから…!!
後で騒ぎになっては困るんだ!
大丈夫
彼らは後で目が覚めても何があったか覚えてない
ヨロヨロ
そ…そうか
まぁ起きてしまったことは仕方がないね……
割り切って先に進もう
どっとつかれた…
マルスさま気を強く持って!!


見取り図の空白地帯…
僕の見立てが正しければ
この辺りが神話遺物庫の入り口なんだけど……

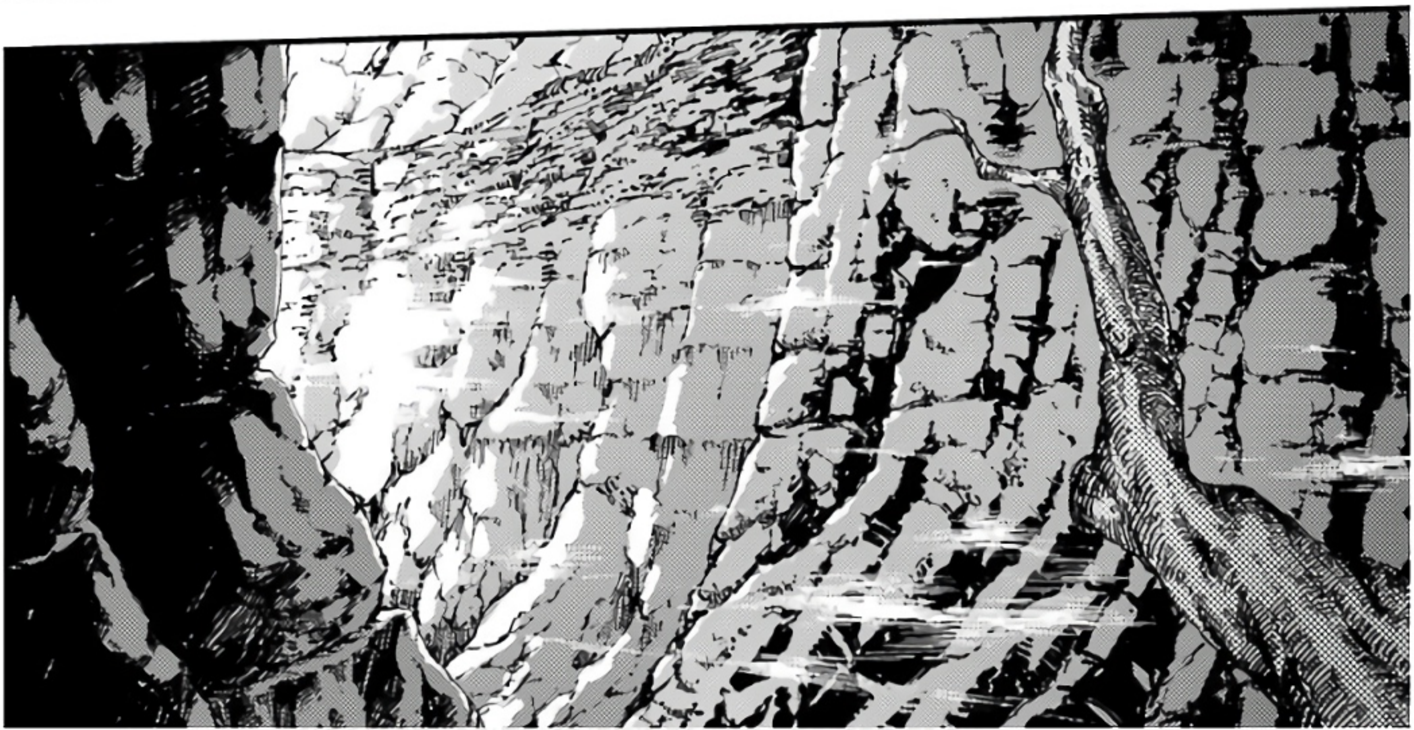

あれは……ゴーレム!?
イダノカンの魔導兵器か……
命令を受けこの場所を守っている
近づかなければ危険はない
指輪王の指輪さえ不確かな物と信じなかった父が…
なぜ古代の遺物を…？
父は何を考えているんだ……

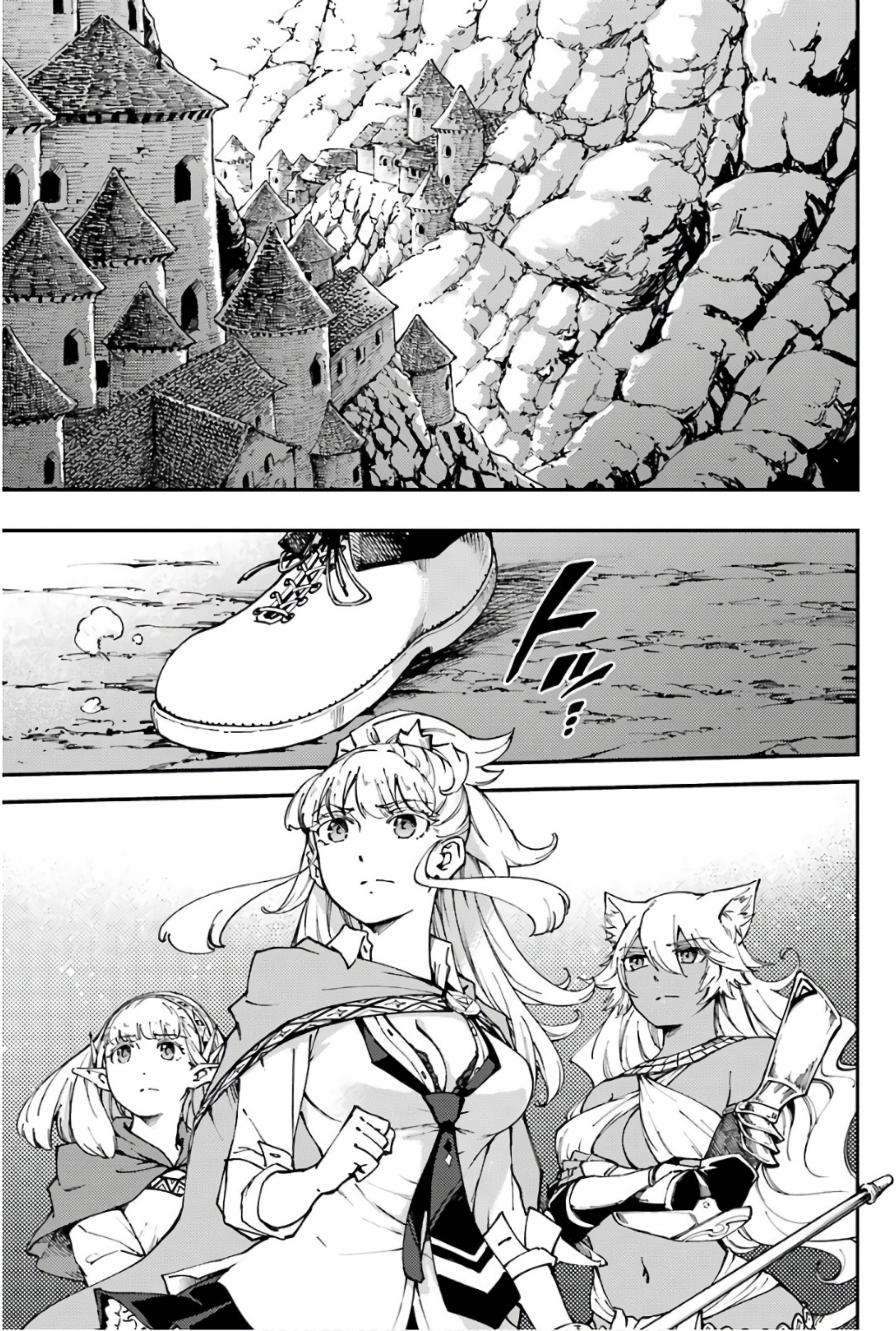

……という わけで
遺物庫の入り口は 分かったけど 簡単には入れそうに なかったよ
ゴーレムは 不眠不休の 門番
説得も 隙を突くことも 出来ない
どう すれば…？
無理
ドワーフの技術は とてもとても高い
彼女が 言うには… 強行突破しか ないらしいよ


戦うとなれば騒ぎになるのじゃ
今日と同じ手は使えん
確かに…
それなら良い話を聞いたぞ
最前線へ送られる帝国兵…
その出立を激励する式典があるそうじゃ
その日なら人も少なくなるってことか！
いつなんだ？じいさん！
さぁ……？
ほんと肝心なところで役に立たんの……
そこまでは………

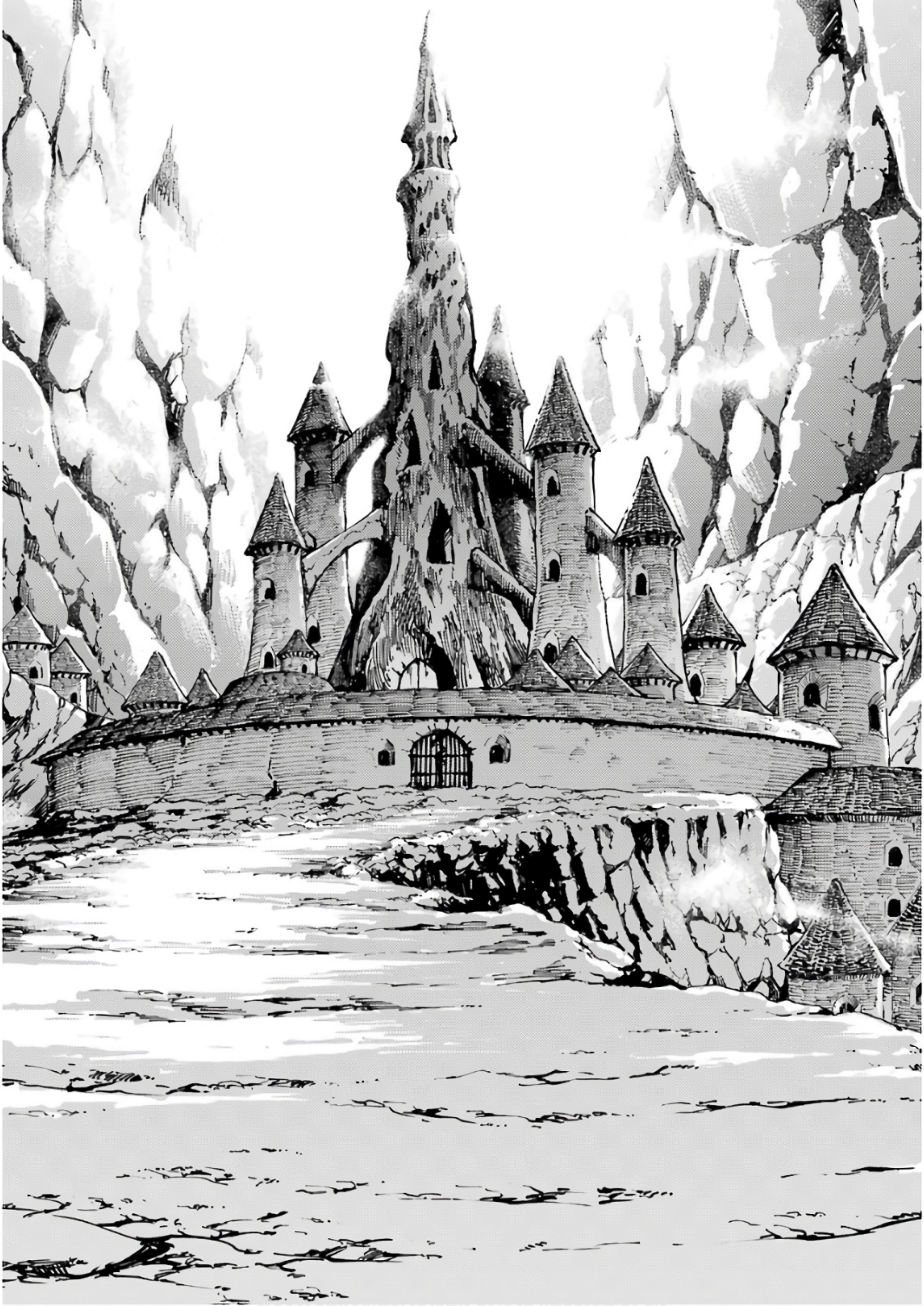

少し調べてみましょう
僕の方でも何か分かるかもしれない
急がないとな……
遺物庫で目当ての物を見つけて
早くヒメを迎えに行かないと…
サトウくんは心配性じゃのう
モーリオンもおるんじゃ
滅多なことはあるまいよ

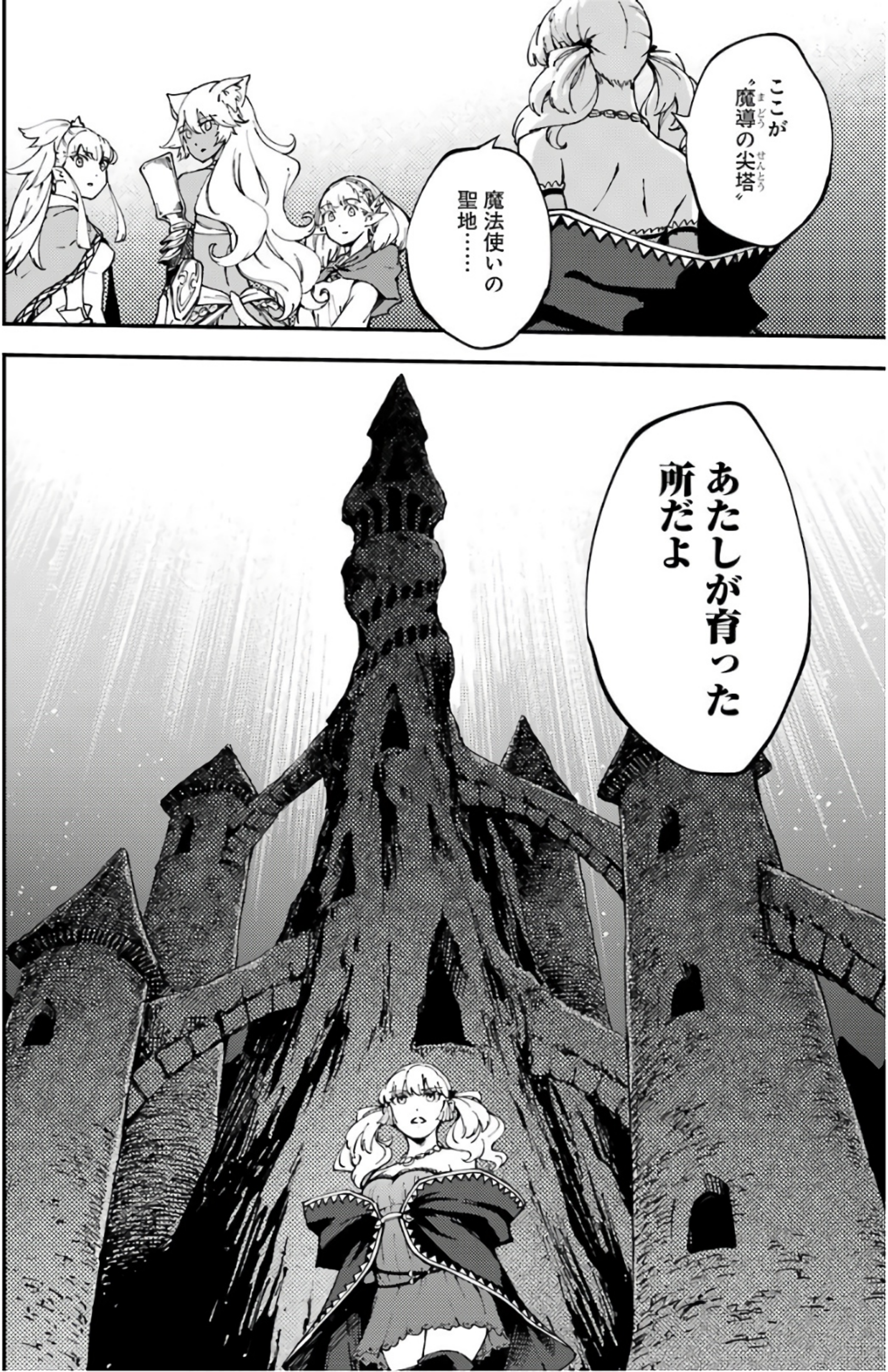





ドッ







ここが“魔導の尖塔”
魔法使いの聖地……
あたしが育った所だよ


ここは
魔法修練の
地として
世界で一番
ほんとは選ばれた
特別な才能を
持った人しか
来られないんだ
魔法を覚えたての
お姉ちゃんたちには
ちょっと
厳しい所かも

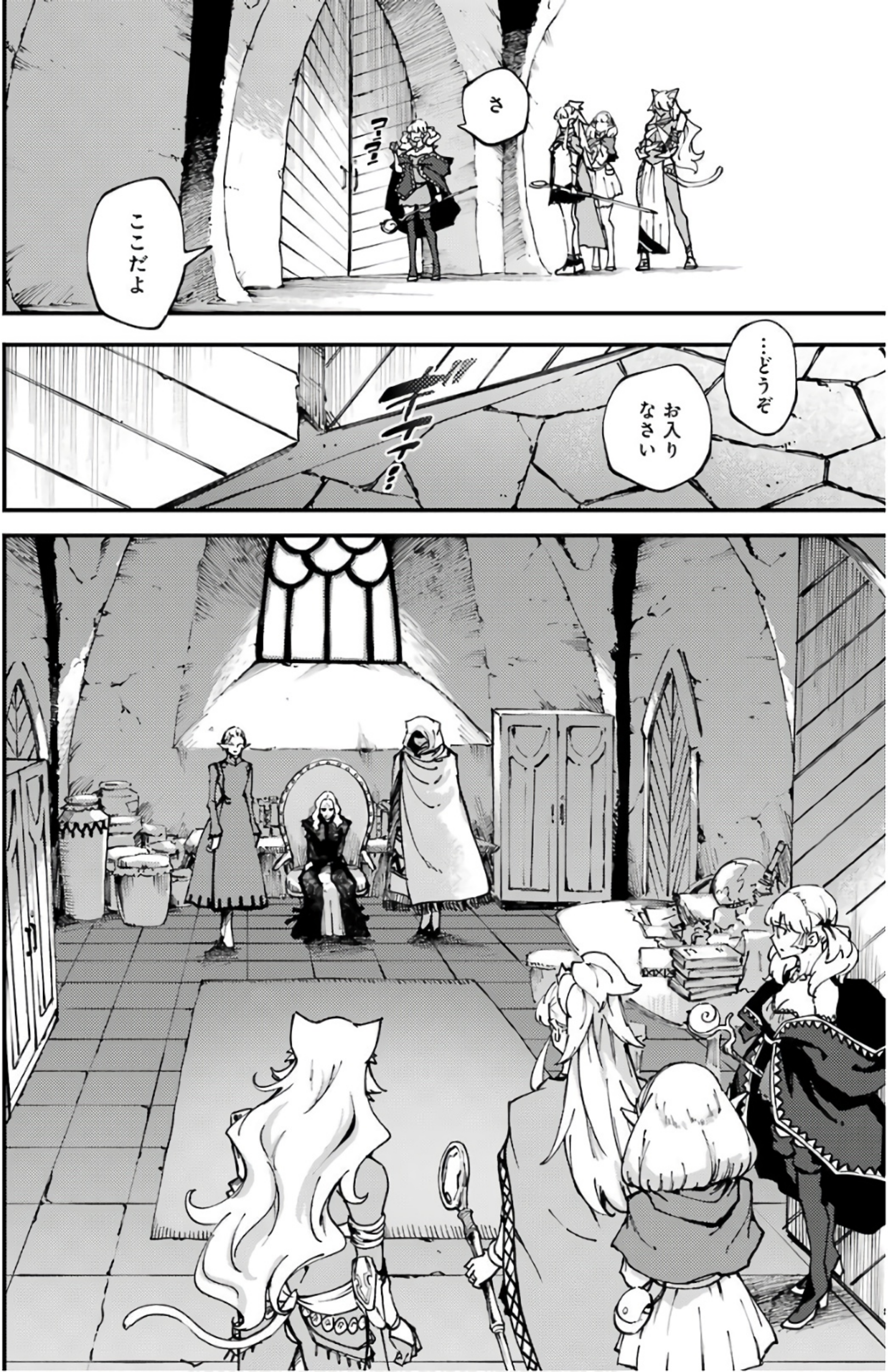

魔法の研究とか修業って集まってやった方が都合が良いの
感覚を直に教えてもらうのがどれだけ効くのかは知ってるでしょ？
!??
…うん
良い師を得ることは剣の修業でも大切なことだからな
それに世界中から集めた魔法書で知識を得ることも出来る
外の世界では絶対に学べないことがここにはあるんだよ

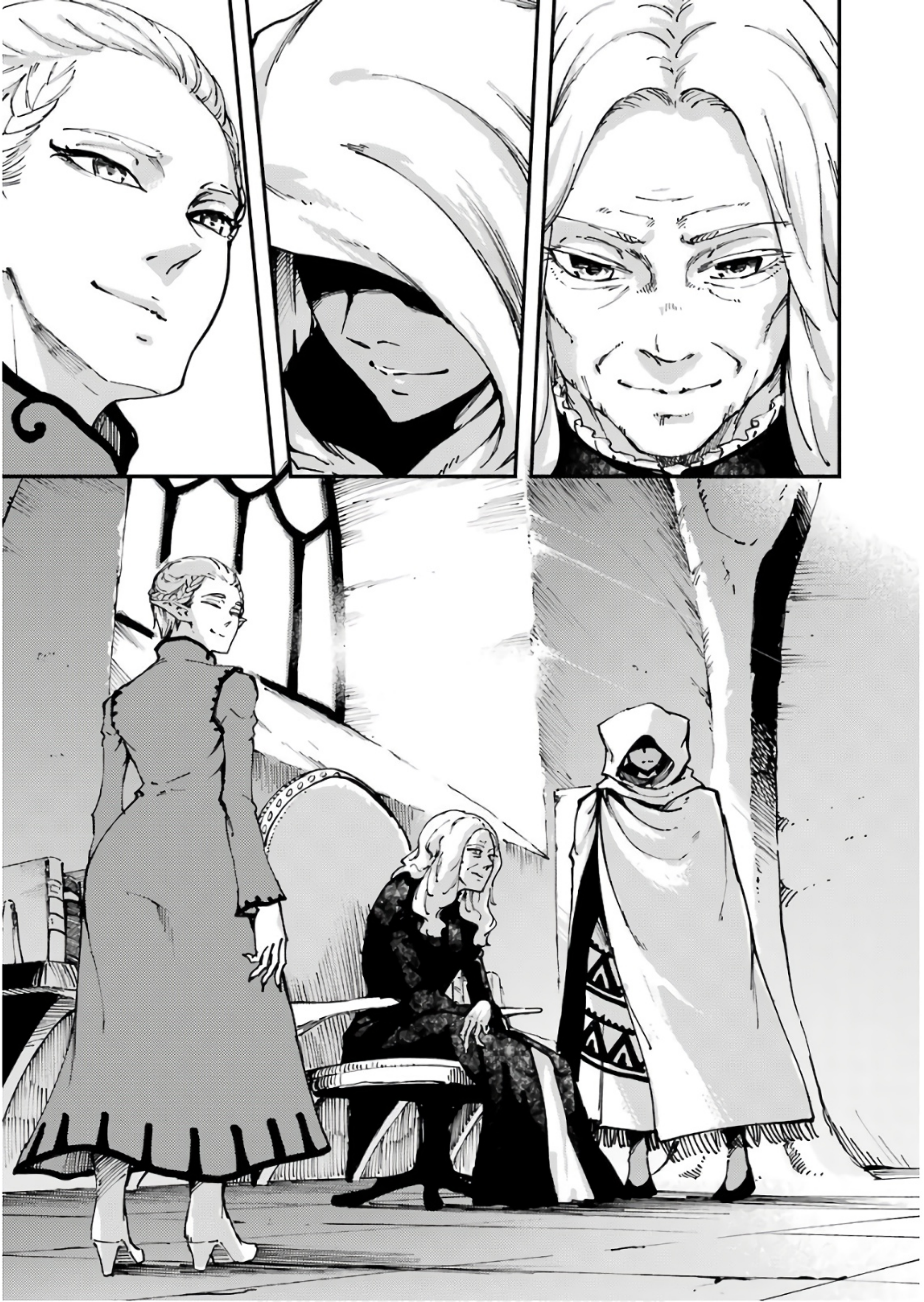


ザッ
ザッ
あ……
ペこり
こ……
こんにちは～

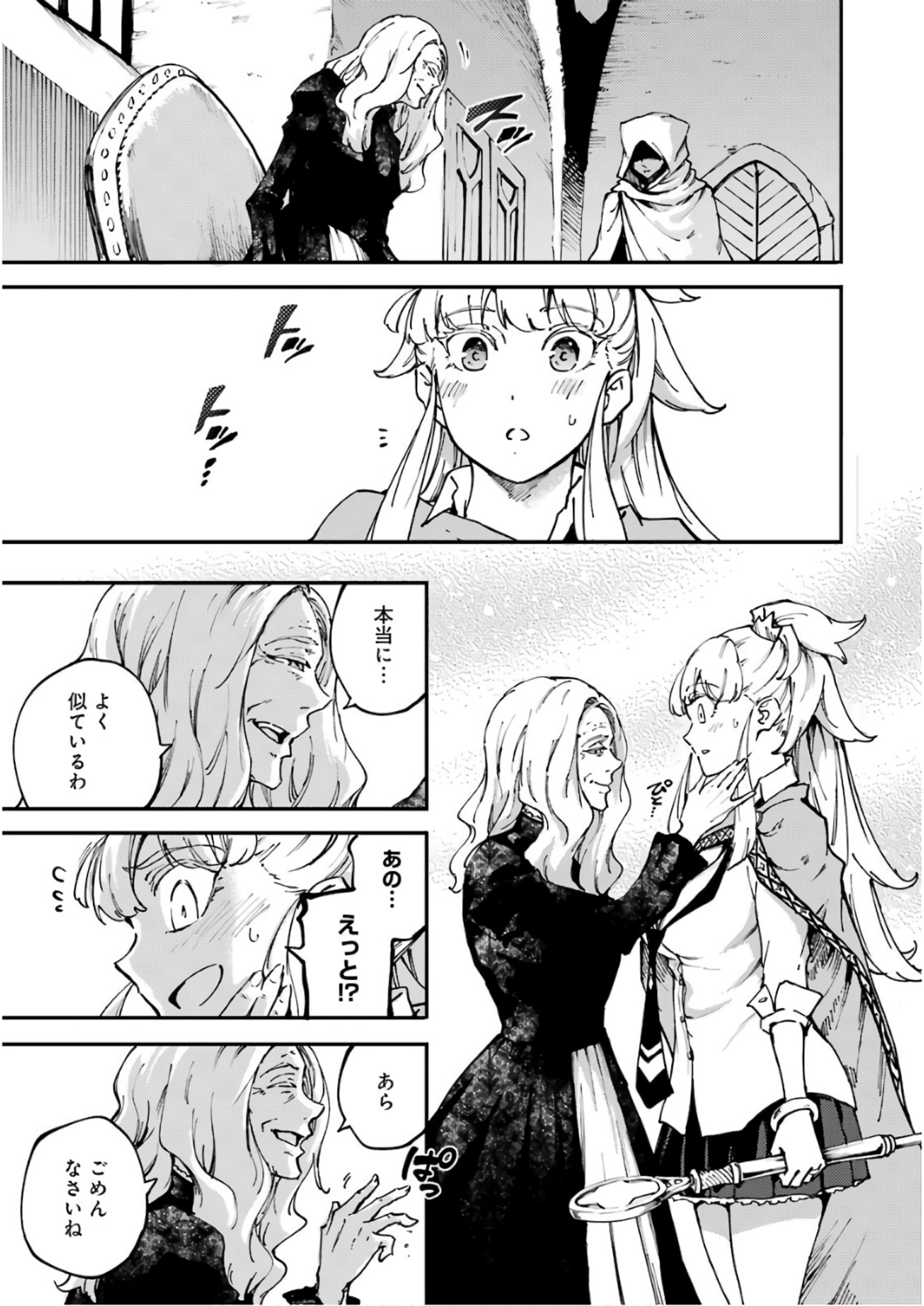

えーっ…
なんていうか…
静かだね？
ここに居る人たちは
いろいろ背負ってる
家名だとか
個人的な野望だとか
国家の威信だとか…ね


他人に関心を持つ暇なんてないんだよ
モーリオン……？
ホント…
つまらない


さ
ここだよ
…どうぞ
お入りなさい



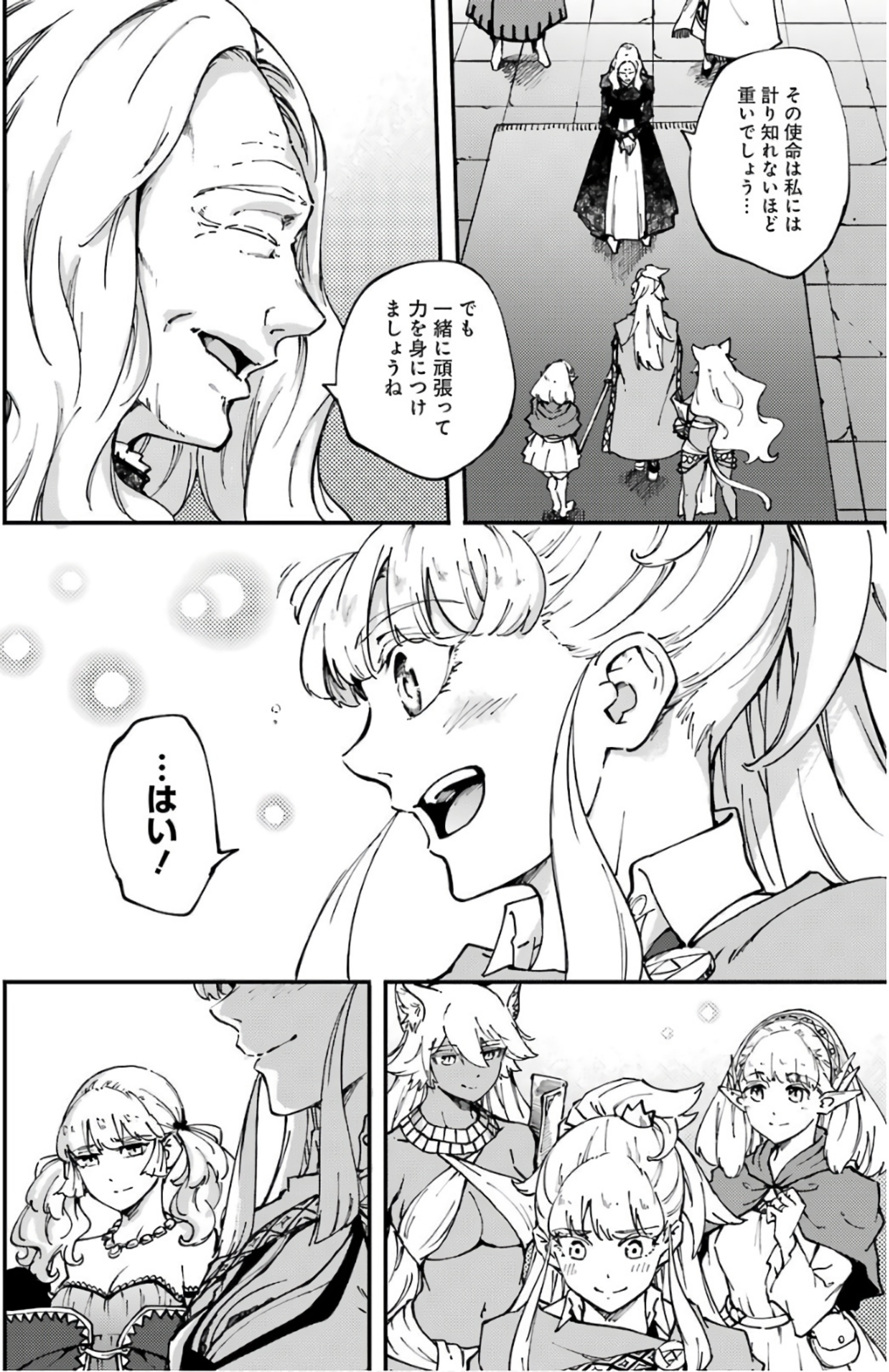

はじめまして輪の君たち
私はここの長
話はもう聞いていますよ
本当に…
よく来てくれましたね
ニコッ
よ…
バッ
よろしくお願いします!!!
?


ズッ
トッ
トッ…
ぴと…
本当に…
よく似ているわ
あの…
えっと!?
あら
ごめんなさいね
ぱっ



あなたの母に魔法を教えたのは私なの
懐かしいわ…
モーリオンもよく似ているけれど
あなたはもっと…
お母さんに…？
あたしその話はじめて聞いたんですけど!?
ふふっ
私はねあなたの…祖母の妹
大叔母にあたるの
赤ちゃんの頃にあったことあるのよ？
覚えていないでしょうけど


ノカナティカ王家の人間には強い魔力を持つ者が多い
王位につかなかった者は魔法の道に進むことが多いの
モーリオンも私もアラバスタもそうよ
……あなたにもきっと才能が眠っているはず
だからそんなに思い詰めた顔をしなくても大丈夫よ
はっ


その使命は私には計り知れないほど重いでしょう…
でも一緒に頑張って力を身につけましょうね
…はい！


あなたたちには指輪王と共に立ち…
寄り添えるだけの力を身につけてもらいます
過去の指輪の姫たちはすべてを指輪王に託しその力に賭けました
しかしそれは現在の我々が目指すべきところではありません



指輪の魔力の扱いに未だ慣れぬあなたたちは…そうですね
少なくともあなたたちの母親と同じ程度には…
魔力を扱えるようになるべきでしょう
火の魔法はこの尖塔では私が…
風の魔法は私が最も優れています
我々の魔法の研究がかならず皆様のお役に立つことでしょう
ここでの修業はそれぞれに行ってもらいます
時間は十分にはありません…早速始めていきましょう


それではネフリティスさま……
ネフリティスさま？

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS

第48話

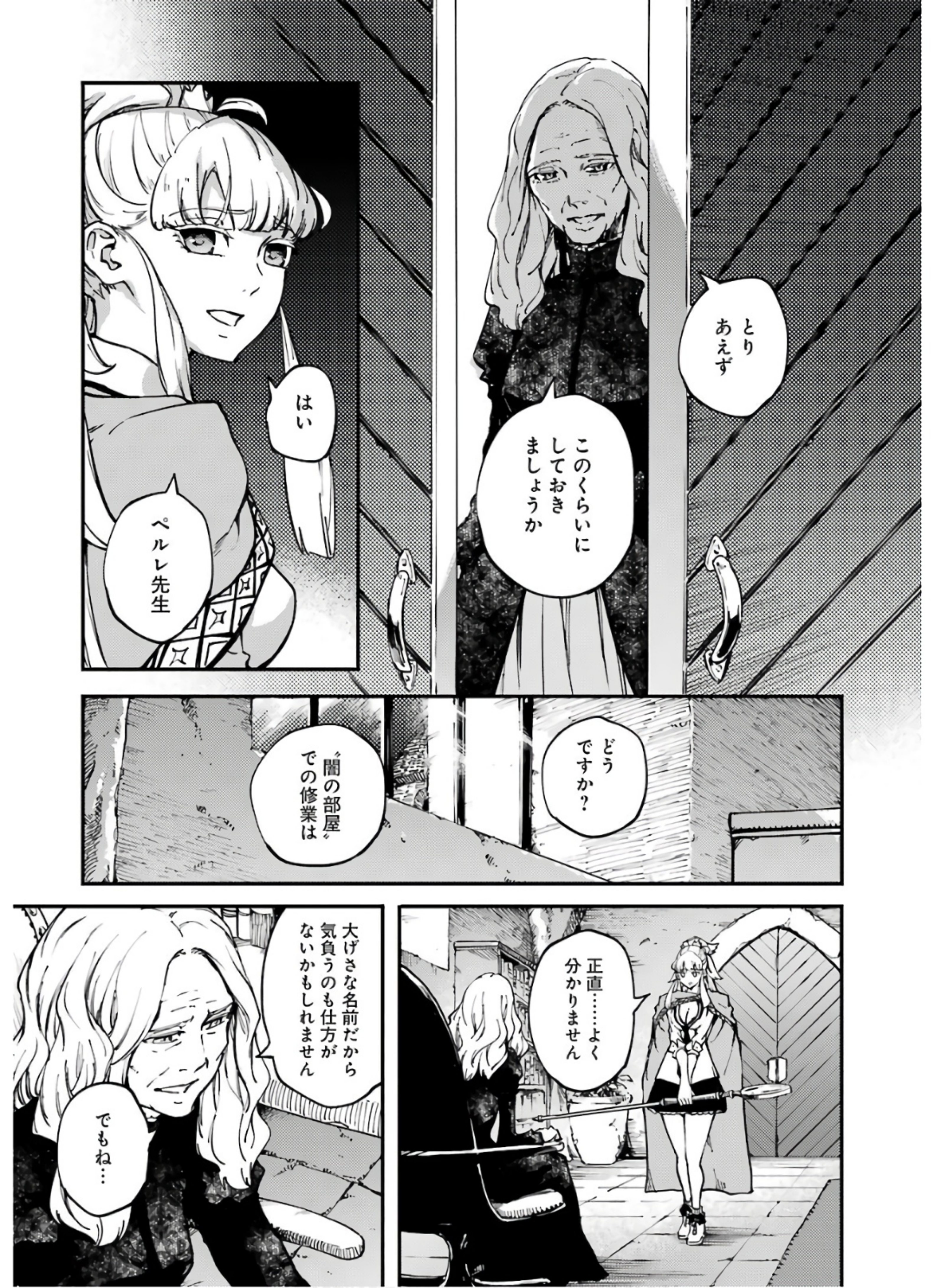


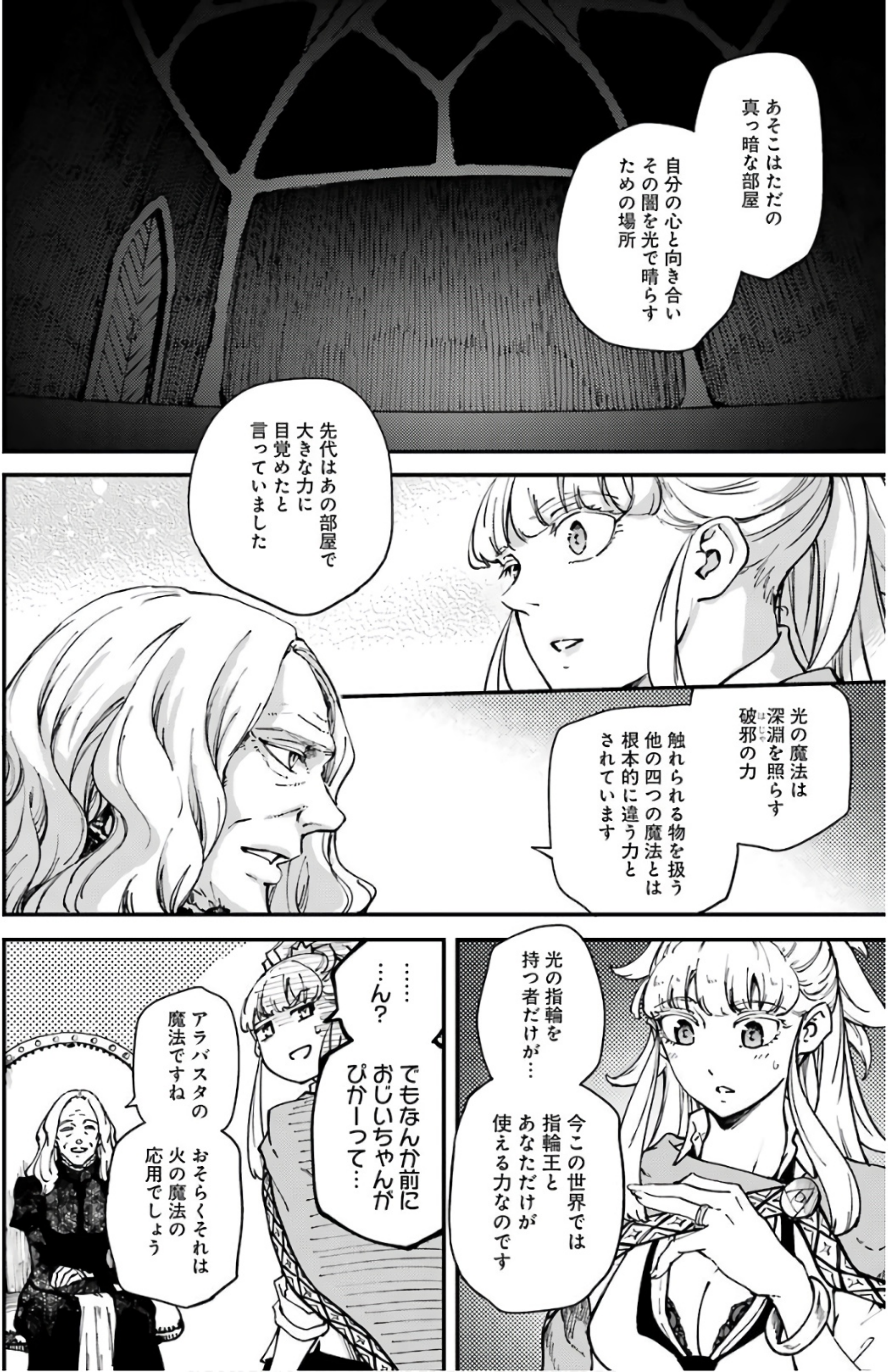


これからは
あなたがこれを
守るのよ
はい…
おかあさま
そんな顔
しちゃだめ
すぐにまた
会えるから
ギュ…
いって
らっしゃい
さようなら
私の可愛い子


おかあさま…
おかあさま!!!


ガチャ…
……


とりあえず
このくらいにしておきましょうか
はい
ペルレ先生
どうですか?
〝闇の部屋〟での修業は
正直……よく分かりません
大げさな名前だから気負うのも仕方がないかもしれません
でもね…


あそこはただの真っ暗な部屋
自分の心と向き合いその闇を光で晴らすための場所
先代はあの部屋で大きな力に目覚めたと言っていました
光の魔法は深淵を照らす破邪の力
触れられる物を扱う他の四つの魔法とは根本的に違う力とされています
光の指輪を持つ者だけが…
今この世界では指輪王とあなただけが使える力なのです
……ん？
でもなんか前におじいちゃんがぴかーって…
アラバスタの魔法ですね
おそらくそれは火の魔法の応用でしょう

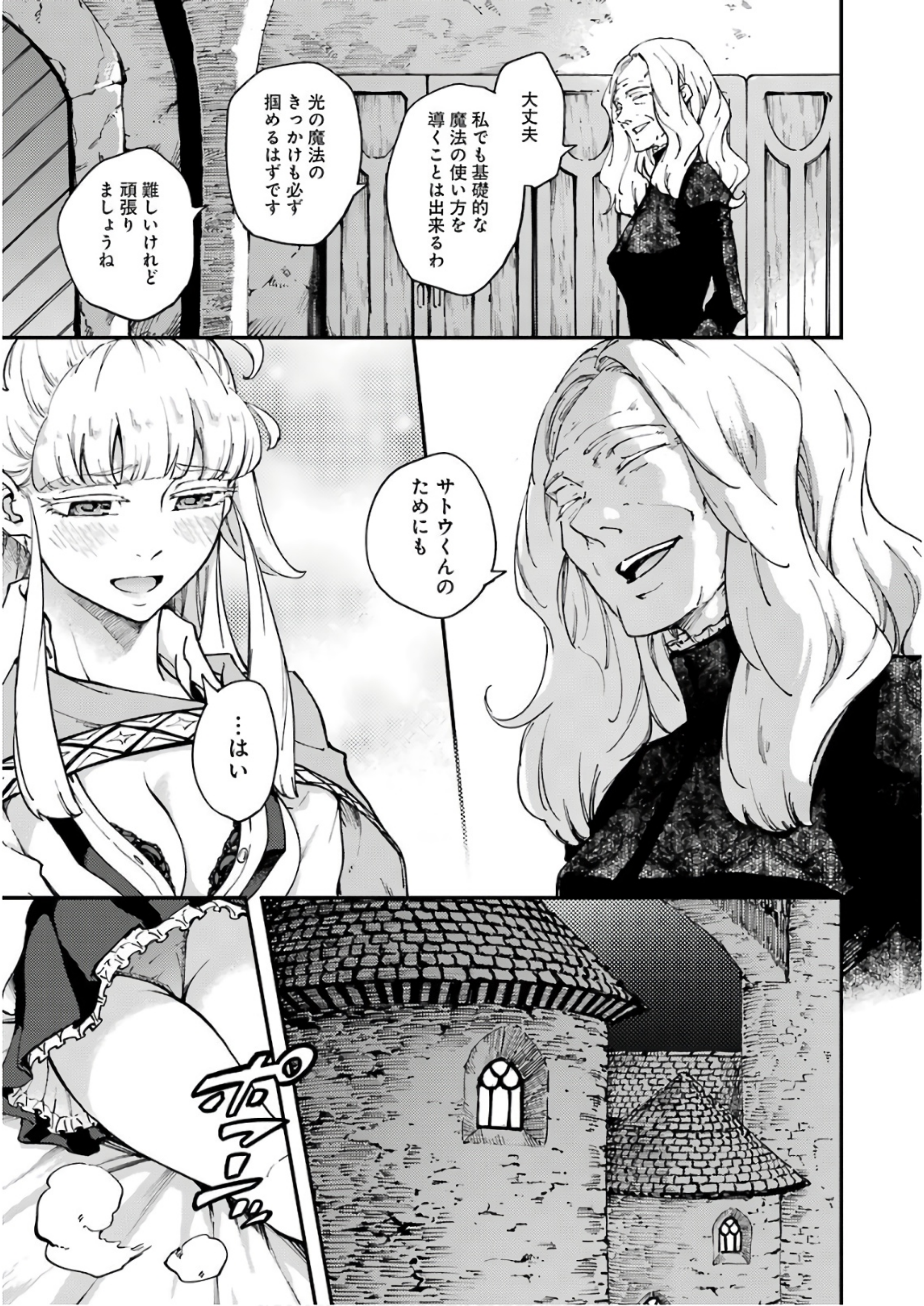

松明の炎は周囲を照らすでしょう
太陽も光輝く
でもそれは魔物を打ち消す光ではない
光の魔法は全く違う光…
在ろうとする心の力が生む輝きとされているのです
在ろうとする……こころ？
…そう伝わっているだけで
詳しい意味は分からないんですけどね


光の魔法は
私にも
使えません
ここの誰も
教えられないの
あなたに
伝えられるはず
だった人は……
もうここには
いないから
あなた自身で
掴み取って
いくしか
ないのです


……少し休憩にしましょうか
はい…
ところで…
指輪王ってどんな方なのかしら？
えっ!?
フフッ
異世界からあなたを追ってきたくらいなんだから情熱的な方なんでしょうね
そんなことないです！ふつーですよ！
でも…



わたしのことになると
すごく
頑張ってくれて…
小さい頃から
ずっと……
もじ
もじ
もじ
もじ
ちょっと
変わってる
とこもあるけど
一緒にいて
安心出来るって
言うか………
素敵なひとね


大丈夫
私でも基礎的な魔法の使い方を導くことは出来るわ
光の魔法のきっかけも必ず掴めるはずです
難しいけれど頑張りましょうね
サトウくんのためにも
…はい



うう…　カラダがだる重い…
魔力の疲れは後からくるから気をつけてね
光の姫として…お母さんには出来たこと……
頑張って追いつかなくちゃ　まだまだこれからだよね
コロ
素敵なひとね


ガチャ
お姉ちゃん！
ひゃっ!!
モーリオン!?
ガバっ
バタン
どうしたの？
そんなに驚いて
別に
なんでも!?
モーリオン
こそ何を…
ちょっと様子を
見にきただけだよ
…あんまりうまくは
いってない
みたいだね
…！


ここに来れば教えてもらえるものだって思ってたから
そうすればあとは頑張り次第でなんとでもなるって……
…でも光の魔法は教えることは出来ないって…
ひどくない!? なんのためにここに来たの!?
でもっともだね～……
…それでも何かしらのヒントは掴めるはずだよ
ここはそういう場所なんだから
……うん
もしかしてもうお兄さんのこと恋しくなっちゃった？
え!?
そ…そんなこと……
ちょっとはあるかも
らぶらぶだね～…


大丈夫だよ
お姉ちゃんなら
あたしは10年間
ずっとここで
一人で頑張れた
だから
お姉ちゃんにも
出来ないこととは
思わないな
モーリオン
………


それに確かにお兄さんとしばらく会えないけど
その分さらに愛は燃え上がるはず……！
一皮むけたお姉ちゃんを見せてやればいいじゃん！
それじゃおやすみ～頑張ってね☆
うん！ありがと


はぁ…
単純だなぁ…
ま
そういうところは嫌いじゃないけどね
あ〜良いコトしたな〜っ
らん♪らん♪

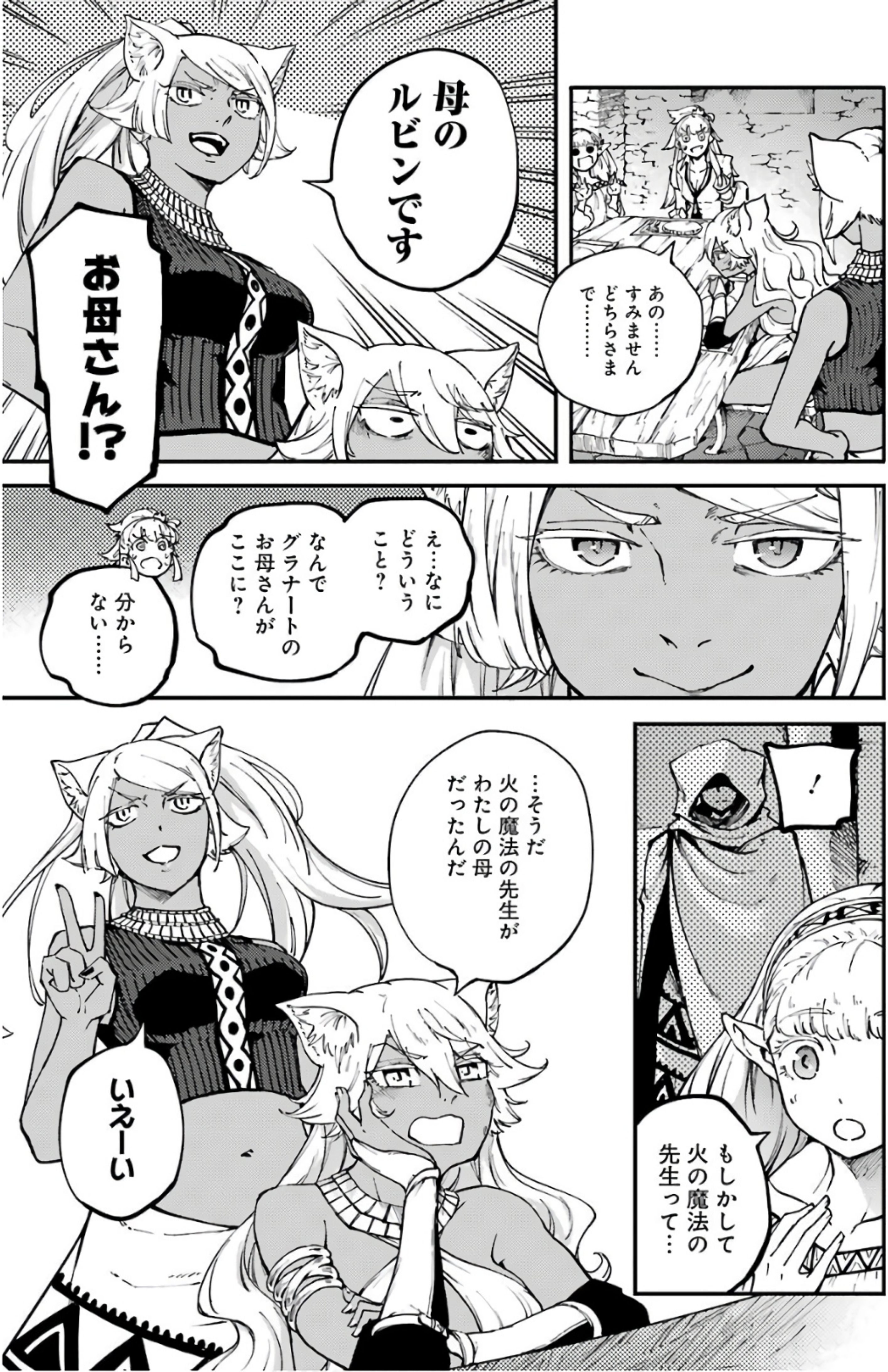



ずぅ――ん…
すみません お待たせせして…
ネフリティス！ ううん…全然 待ってないよ！
しばらく お顔を合わせる機会も なかったので…
本当に お久しぶり ですね
ズズ
ここに来てから… もう1週間くらい でしょうか
そうだね…
もう 1週間か…
この〝魔導の尖塔〟は 本当に素晴らしい 所ですね
魔法に関する 書物が たくさん ありますし…
なにより… どこに行っても 皆さん大変 静かなので…
余計な 気苦労もなく 大変はかどり ますね♡
う…うん 確かに ネフリティスには 良い所だろうね…


先生は……良くしてくれてる？
先生……？
あ…これはネフリティスの先生だいぶ苦労してるな…
クリストル様は……
少しお困りですか？
そう……だね
なんか光の魔法って特別みたいで
風の魔法は捉えどころがないという点では光の魔法と似ているそうですが……
ありがとう…ネフリティス
でも大丈夫だよ
扱える人が限られる……というのは難しいですね
今は自分のことに集中して
ちゃんと一人ずつ戦える力をつけなくちゃね！
何かお力になれればいいんですが……


ザッ
遅くなったな………
グラナート!?
ボロ…
どうしたのその顔!!?
魔法というふわっ…としたものはやはり難しいな…
しかしだいたい分かってきた
火を思い通りに操るというよりは
自分の内に宿る火の魔素を
肉体の力に変えているのだ…
うん…
…うん?
コツさえ掴めばなんとかなるぞ!
クリストルも頑張れ!!

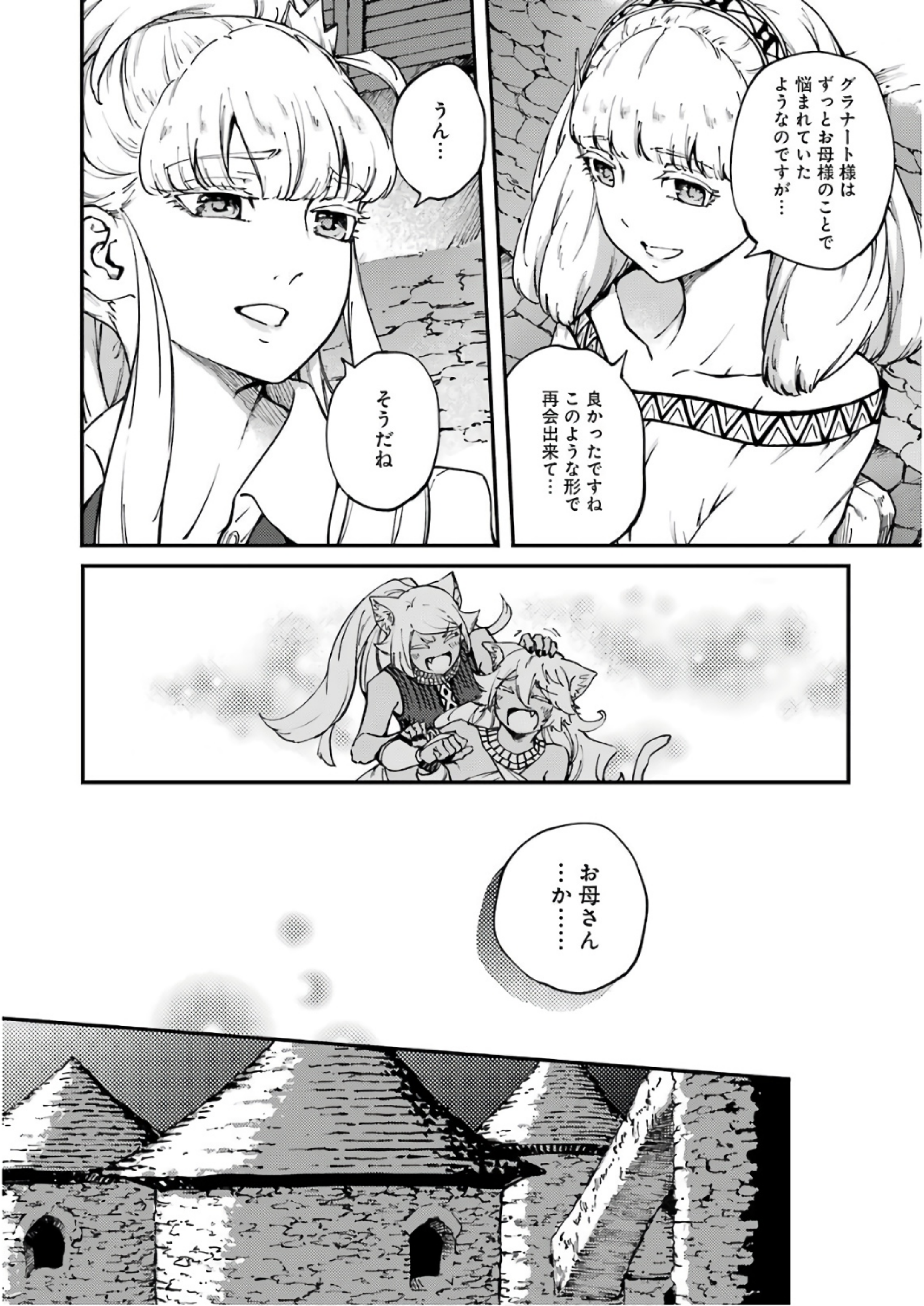

しかし…とにかく腹が減ってしょうがないな……
それよりもその怪我だよ！魔法の修業でそうなる!?
もぐもぐ
これはだな…
なんだグラナートつれないじゃないかー!!
友達と飯を食うなら私も誘え!!!
誰!?


母のルビンです
お母さん!?
あの……すみませんどちらさまで………
え…なにどういうこと?
なんでグラナートのお母さんがここに?
分からない……
!
もしかして火の魔法の先生って…
…そうだ火の魔法の先生がわたしの母だったんだ
いえーい

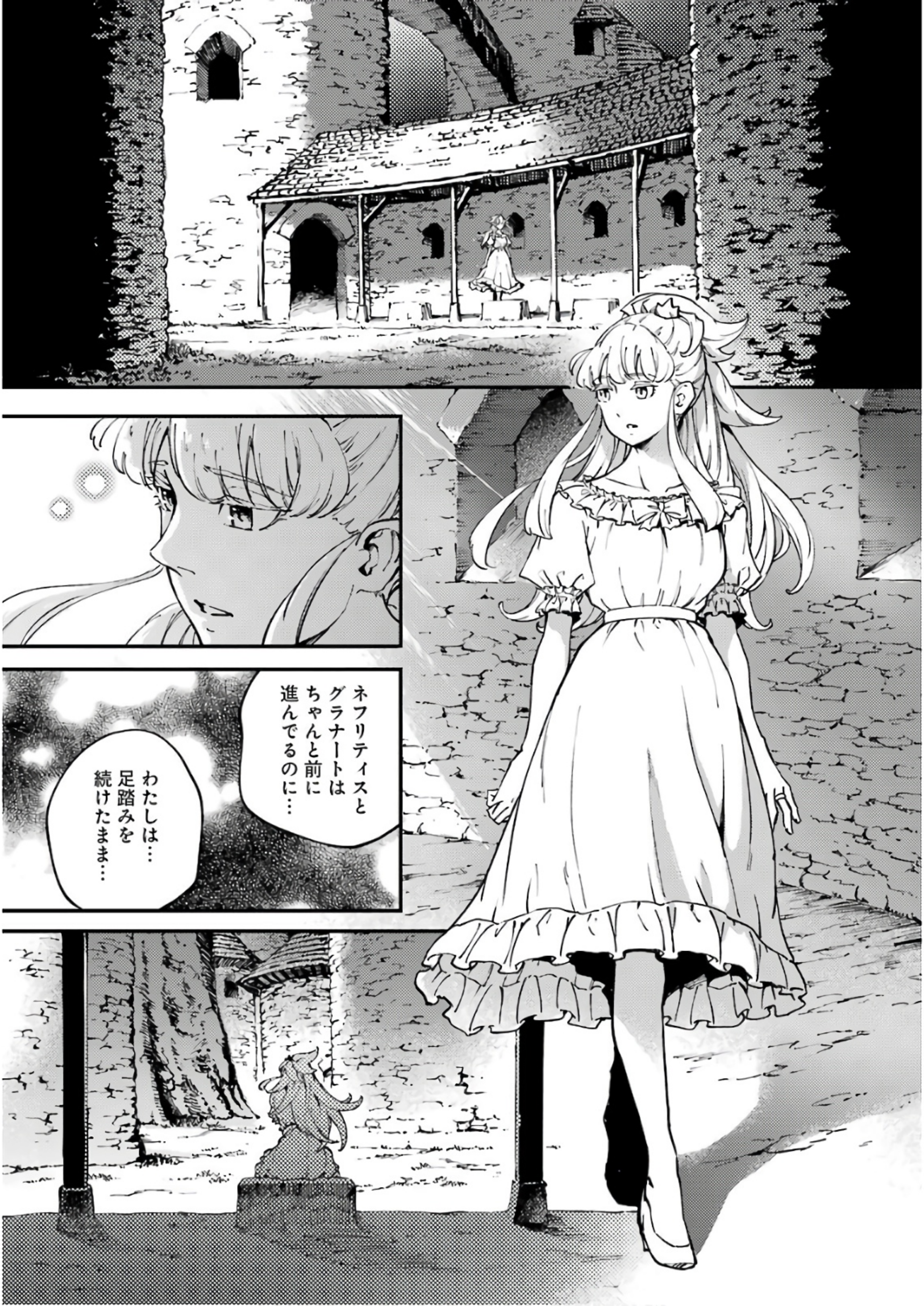


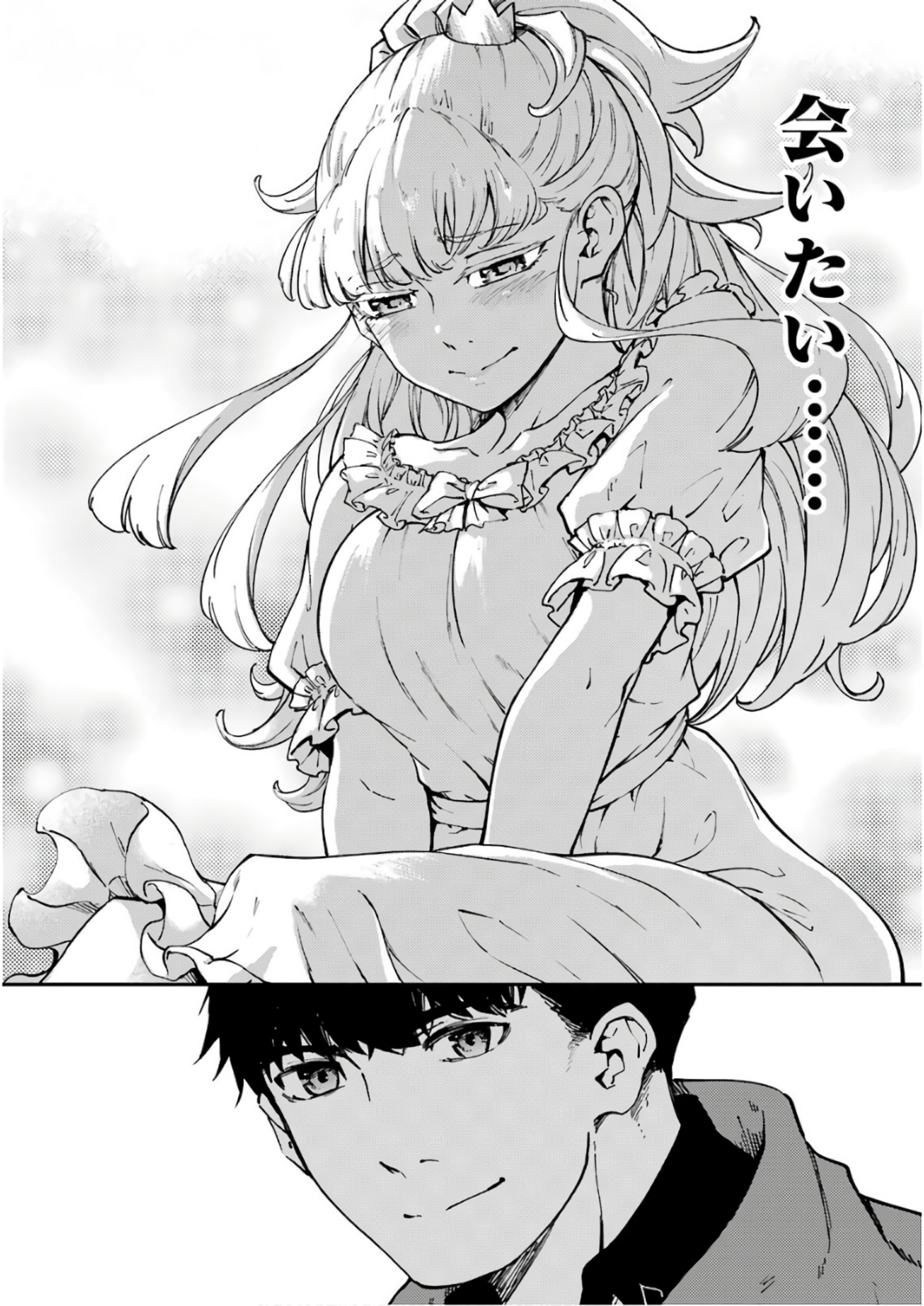
私はグラナートの子育てが終わった後ニーダキッタを離れ修業の旅に出た
そしてこの魔導の尖塔に辿り着いたのだ
憎き我が夫をいつかぶちのめすためにな!!!
母は剣を捨てたわけではなかった…
ただ更なる新しい力を求めていたんだ
大事な娘のためだからな…しばらくは子育てに専念したかったのだ
ぬぁぁ…
だから区切りをつけた
しかし私は自分の道を諦めたつもりはない
娘は勝手に母に捨てられたと思っていたようだが
!!
ちゃんと言わないから!
そーだったか？言ったつもりなんだが…


もうちょっと……
一緒にいたかった…
そうかそうか
ごめんよ〜
寂しい思いをさせてすまなかったな〜
よしよし
しかし私は嬉しいぞ
立派に育って
この地にまで辿り着いてくれて！
な？
ぐらにゃーとちゃん♡
にゃ？
いやーこの子は小さい頃自分の名前がちゃんと言えなくてな！
ほら名前を言ってごらん？
グラナートだグラナート！子供扱いするな!!
成長したな…
ホロリ

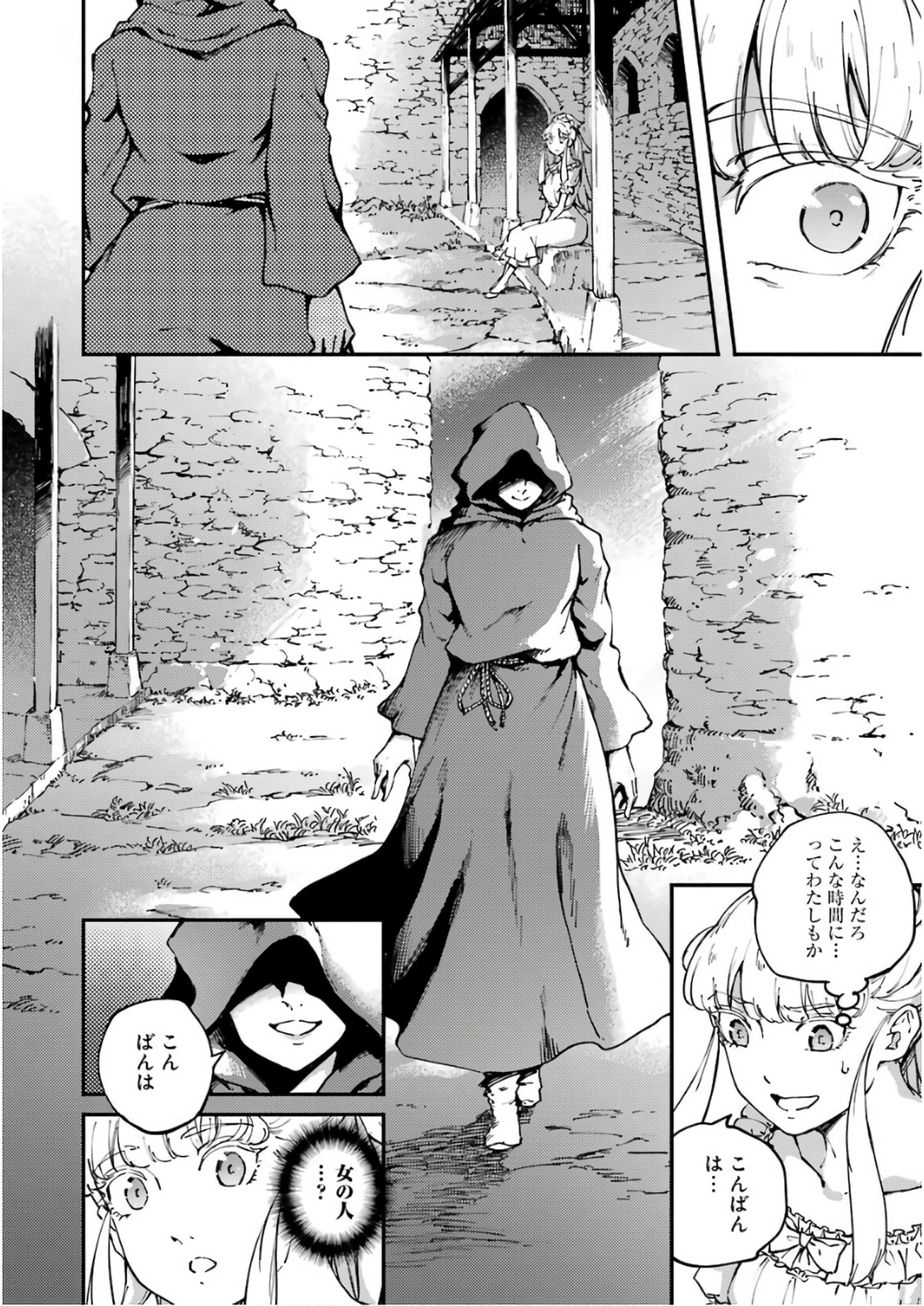


グラナート様は
ずっとお母様のことで
悩まれていた
ようなのですが…
うん…
良かったですね
このような形で
再会出来て…
そうだね
お母さん
…か……

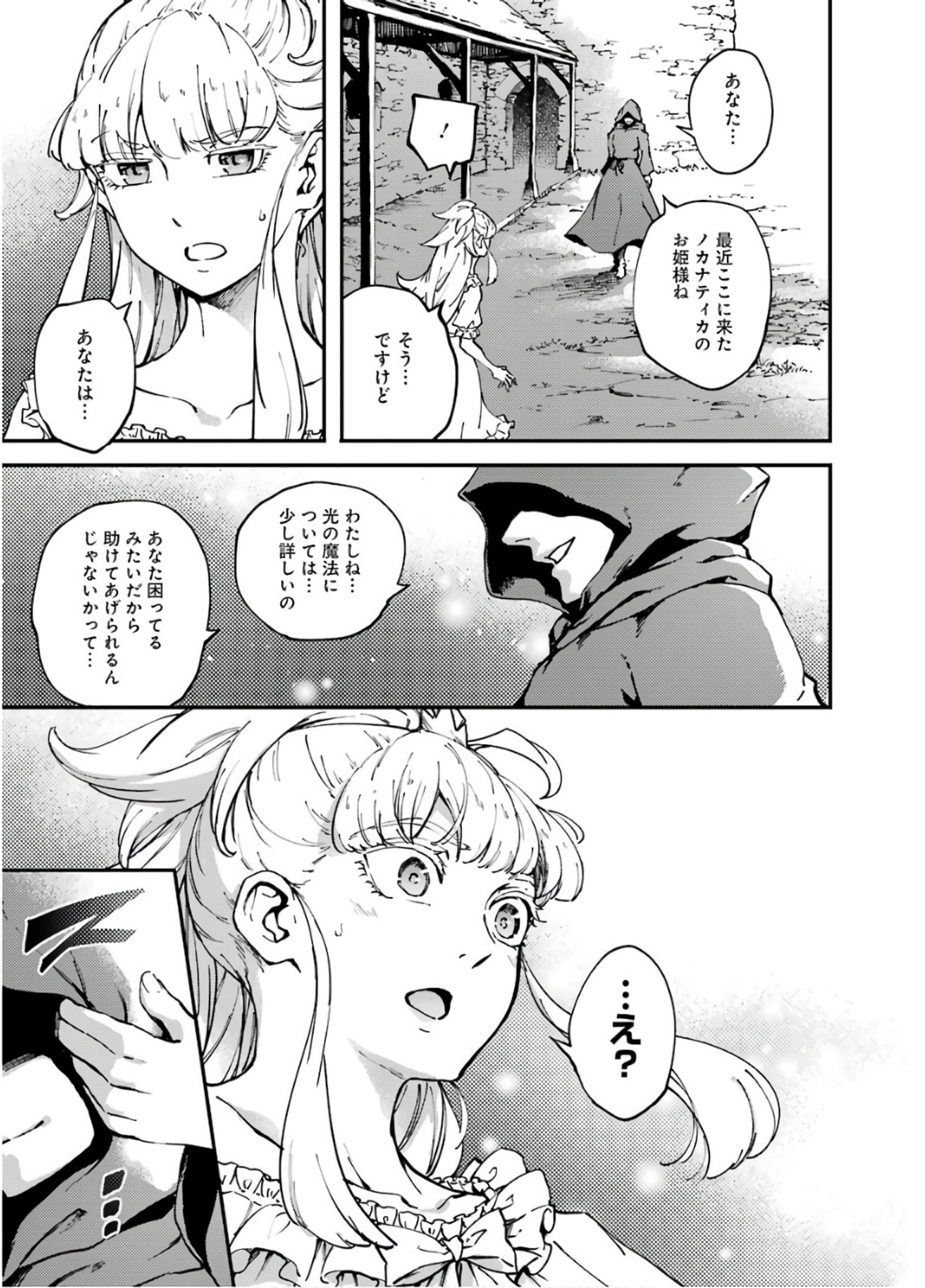

ネフリティスとグラナートはちゃんと前に進んでるのに…
わたしは…足踏みを続けたまま…


会いたい……


一緒に頑張ろう
…ごめん サトウ
サトウは…わたしがいなくても大丈夫かもしれないけど…
わたしは…サトウがいなきゃダメみたい…



え…なんだろ
こんな時間に…
ってわたしもか
こんばんは
こんばんは…
女の人…？


あなた…
！
最近ここに来たノカナティカのお姫様ね
そう…ですけど
あなたは…
わたしね…光の魔法については…少し詳しいの
あなた困ってるみたいだから助けてあげられるんじゃないかって…
…え？




どうしたグラナート――――ッ!!
なにそのでっかい剣……


毎日ちゃんと部屋には来てくれるのだけれどもなぁ…

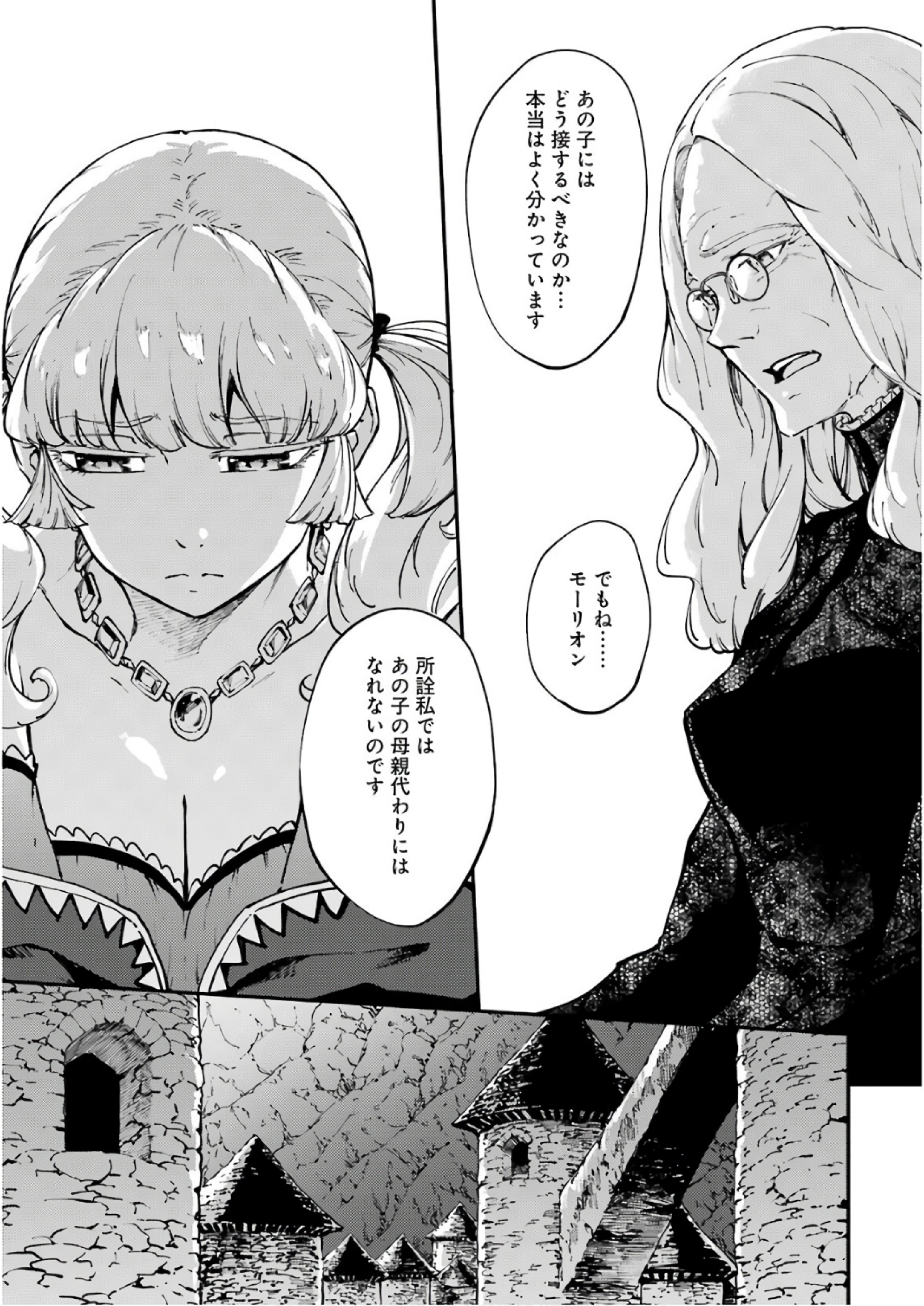
結婚指輪物語

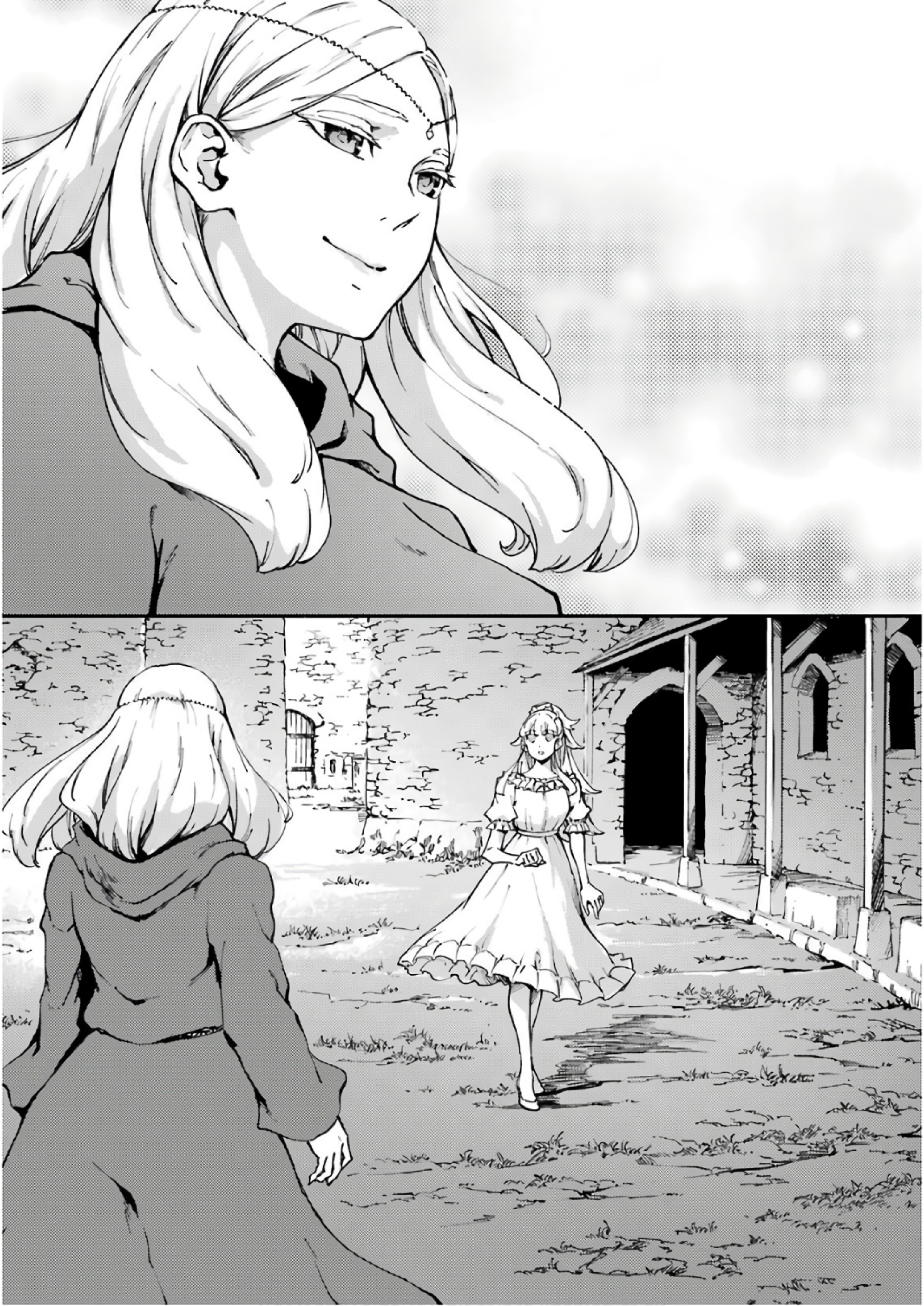
TALES OF WEDDING RINGS

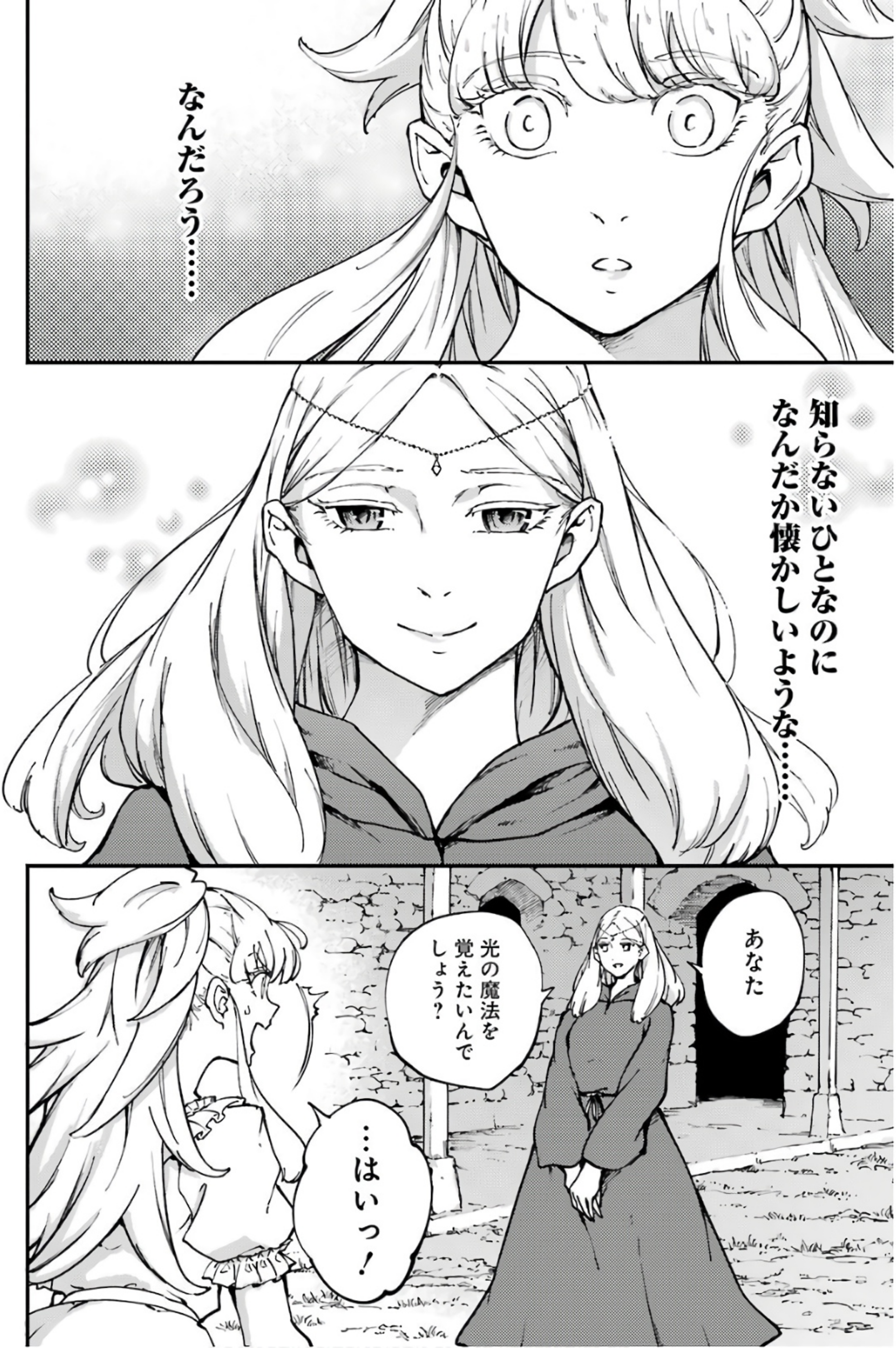

第49話

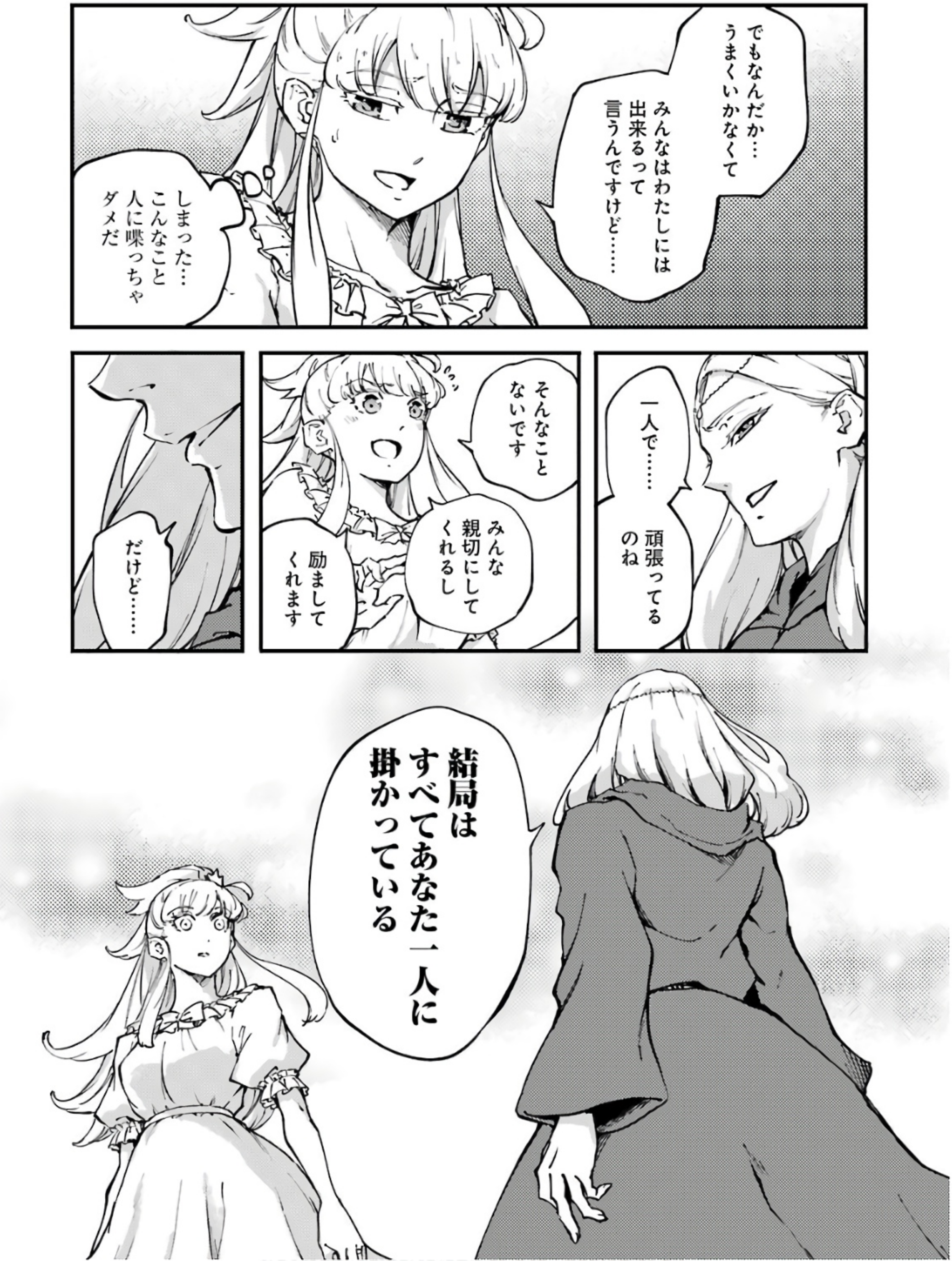

だから～ペルレ先生は冷たいんだよねく
昔っからそう！
…そうかしら？
そうだよ！
仕方のないことです 手助けは出来てもあとは自分次第
特に光の魔法は自らの力で得るしかありません
でもさ……
わざわざがっかりさせなくたって良いのに

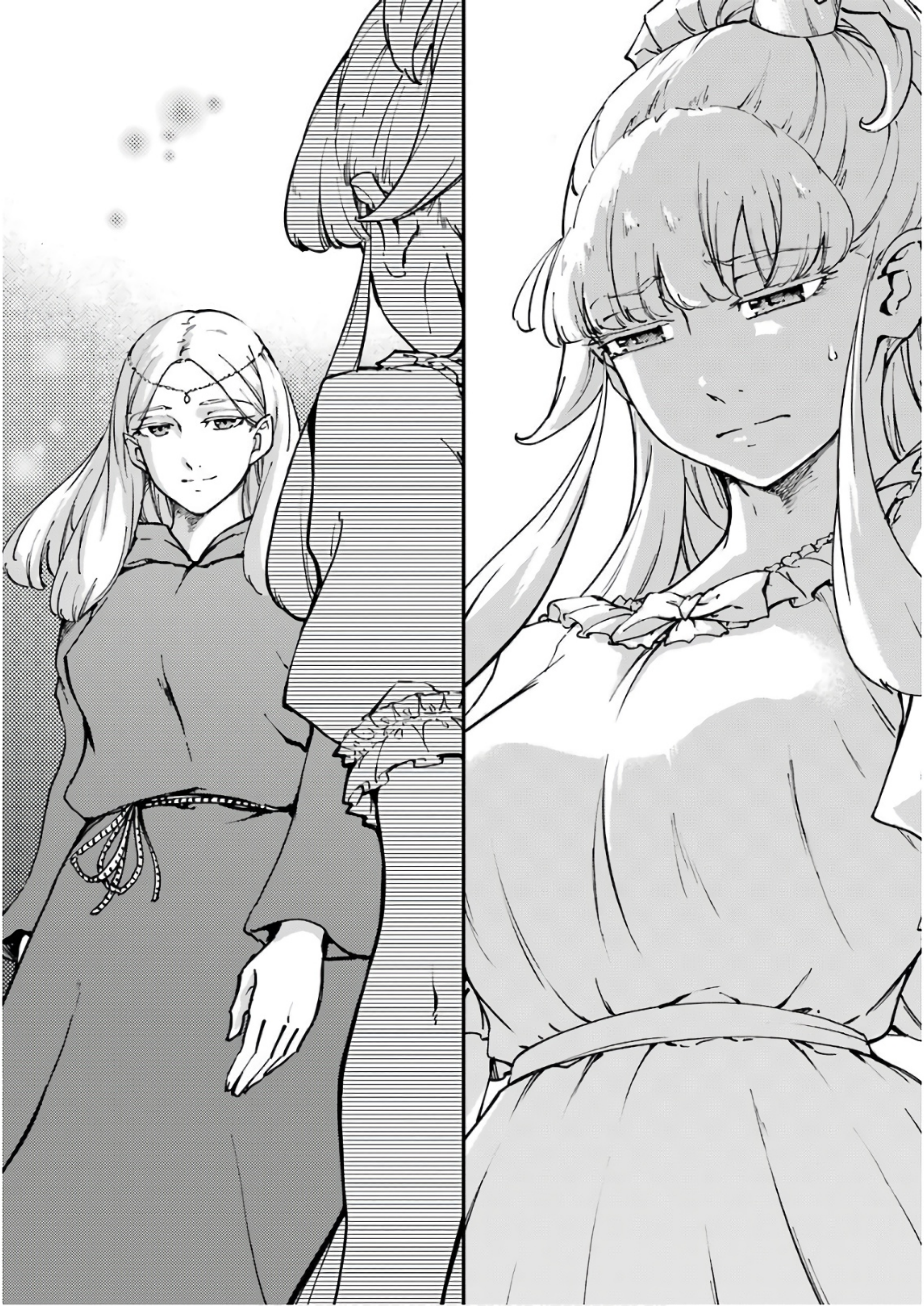

本当のことですから
これは私自身の力不足でもあります
それは素直に認めなくてはなりません
はぁ…
そういうところだよ
優しいように見えて肝心なところで突き放しちゃう
…ホント昔っからそう
お姉ちゃんがここで頼れるのは先生しかいないんだから
…それは
確かにそうですね

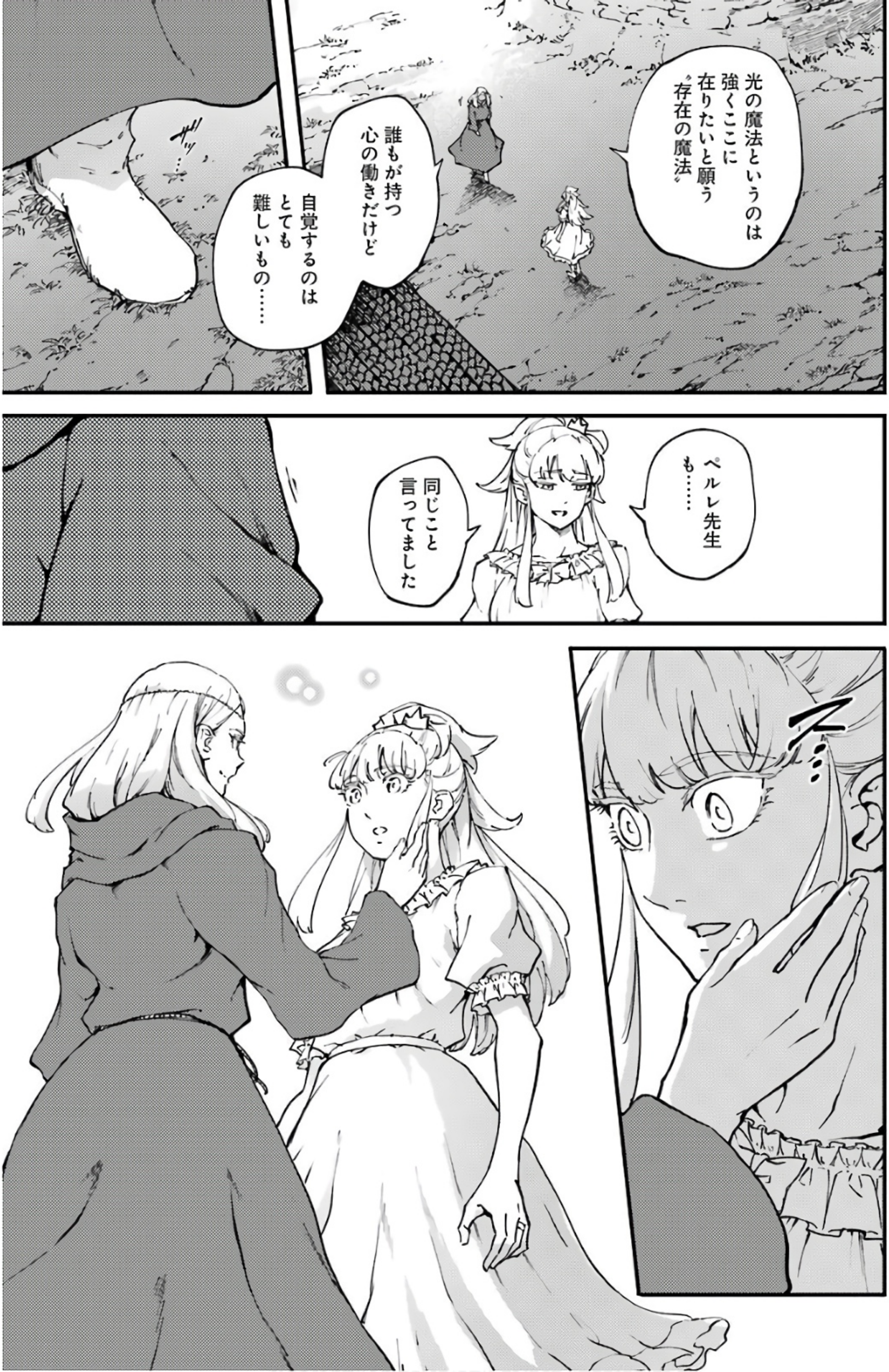

あの子にはどう接するべきなのか…本当はよく分かっています
でもね……モーリオン
所詮私ではあの子の母親代わりにはなれないのです




なんだろう……
知らないひとなのに
なんだか懐かしいような……
あなた
光の魔法を覚えたいんでしょう？
…はいっ！

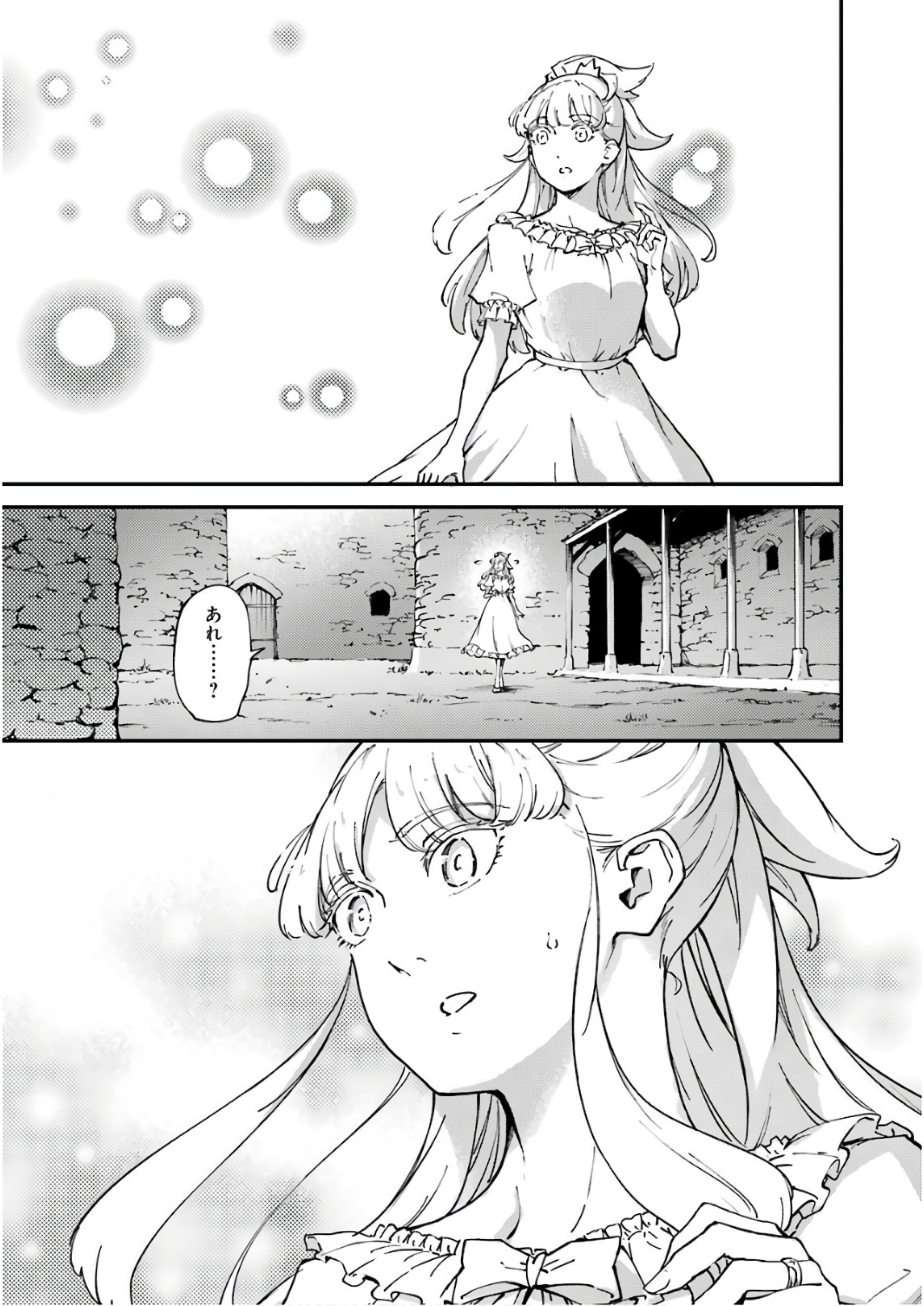

でもなんだか…うまくいかなくて
みんなはわたしには出来るって言うんですけど……
しまった…こんなこと人に喋っちゃダメだ
一人で……頑張ってるのね
そんなことないです
みんな親切にしてくれるし
励ましてくれます
だけど……
結局はすべてあなた一人に掛かっている



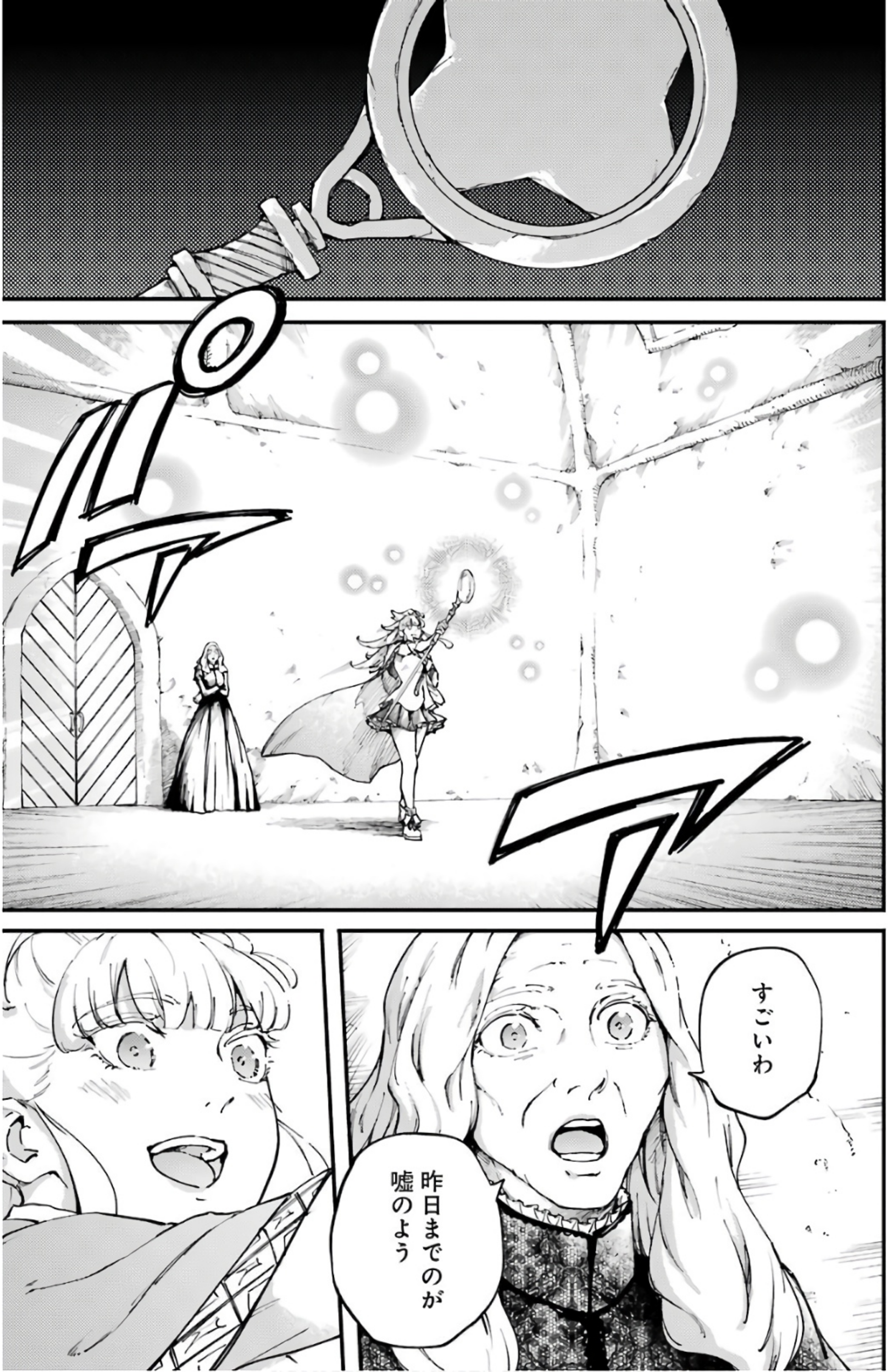


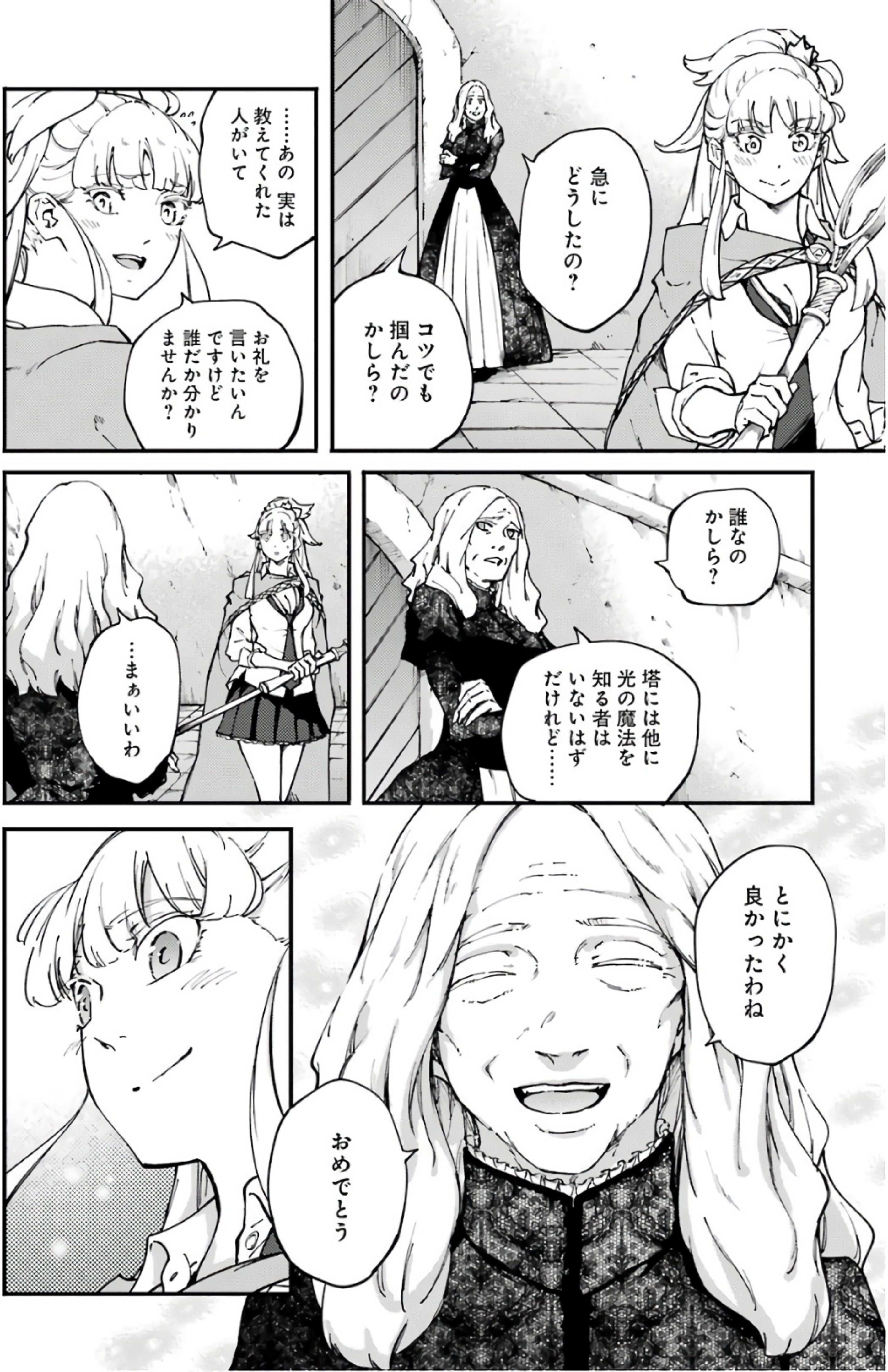
光の魔法というのは
強くここに
在りたいと願う
〝存在の魔法〟
誰もが持つ
心の動きだけど
自覚するのは
とても
難しいもの……
ザッ……
ペルレ先生
も……
同じこと
言ってました


安心して……
あなたはひとりではないわ
あたたかい……
これは……
魔力の流れ……？

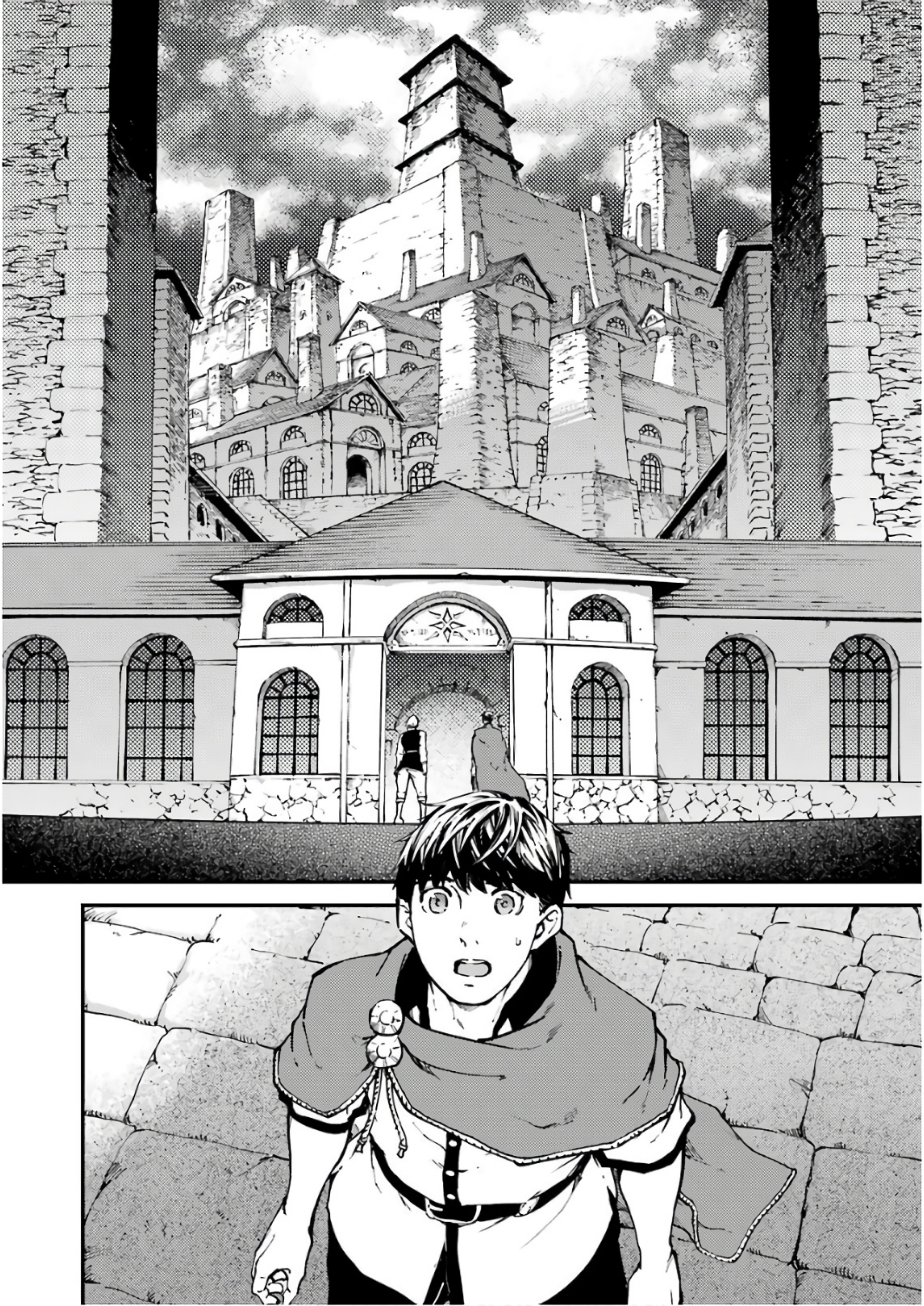

あれ……？


誰だったんだろう……？
不思議だったけど……
でも怖さは感じない
ポワ…


パァァ
すごいわ
昨日までのが
嘘のよう


急にどうしたの？
コツでも掴んだのかしら？
……あの 実は教えてくれた人がいて
お礼を言いたいんですけど誰だか分かりませんか？
誰なのかしら？
塔には他に光の魔法を知る者はいないはずだけれど……
…まぁいいわ
とにかく良かったわね
おめでとう


ありがとうございます！
やっと前に進めた……
サトウ…
わたしちゃんと頑張れてるよ！




ここが帝国の工房だよ
深淵の軍勢と戦うための兵士の武具は
すべてここで作られているんだ
ところで今日はどうしたんだい?
帝国の中を見て回りたいだなんて
いや……
なんかさ
俺と立場は違うけど帝国の人たちも深淵王と戦ってるんだろ
……だからどんな所なのか見ておきたくて


今の僕の立場上
工房の中までは
案内出来ないんだ
すまないね
いやいや
外からでも
十分っすよ
なるほど……
……
マルスさん……
その仮面で本当に
変装出来てるつもり
なのかな……
だとしたら
ちょっと
心配だな
おいそこのお前ら!!
工房に
興味があるのか!?
あ!
すいません…
外から見させて
もらっていただけで


…ん？お前まさかあの指輪王か！
工房まで視察に来るとは結構なことだな!!
遠慮しないで中も見てったら良い！
そっちのヤツも………
あっ
そ……そこのお連れ様もどうですかな？
フフフ…この際だからお言葉に甘えようかな
今 絶対気付いてただろ


すごい規模だな……
深淵王の軍勢と戦うにはたくさんの武器防具が必要だ
もともとギサラスはノカナティカを守護する戦士の国ではあったが
ここまで大きな工房を作ったのは最近の話でな
近隣諸国をまとめあげた力の礎がまさにこの工房というわけだな


今日は市街を見て回ってたんだろ？
どうだい？帝国は
良い所だなって思ったよ
想像してたよりはずっと
でもなんか俺皇帝さんにはあまり歓迎されてないみたいで……
帝国の人たちもみんなそうなのかなって思ってたんだけど…
俺たちには指輪王の力がどんなものかは分からないが
深淵王と戦う者同士として信頼してるぞ
ここで働いている者も兵士たちも皆同じだ
お前はどうだ？



正直なところ……あまり自信は無いんだ
その信頼に応えるだけの資格が俺にはあるのか……
指輪王と言っても見たところまだまだ子供だ
そう思うのは仕方あるまい
……いいか
戦っているのはお前だけではないがお前のためでもない
その戦いで命を落とす者もあるかもしれないが…
皆それぞれの意思で戦っているんだ
それを忘れちゃいけないぜ


今日は色々案内してくれてありがとうマルスさん
どういたしまして
僕の祖国に興味を持ってくれるのは嬉しいよ
それにしてもすごかったな帝国の工房
見れて良かったかい？
そうだな…
俺は俺の出来ることを…
やらないとダメなんだなって思ったよ


いよいよ明日は……
神話遺物庫への侵入を決行する日だね
父は……深淵の脅威に対抗するために神話に残る様々な遺物を探した
でも実際はほとんどが偽物か役立たず
たとえ魔力を秘めた品であってもその力は扱いにくい物ばかりだった
そんな品々を保管してあるのが神話遺物庫だ
父は指輪も同じような物だと思っているのかもしれない
現実主義者なんだ
僕は父の望みに沿えない人間だったけど
それは理想とするものが違っていたからだと今は分かる


ガチャ…
ただいまー…
どういうことなんですか!!?
まだお姉さまに手を出していないなんて!!!
え……手を……なに?
お姉さまがどんな思いであなたの妻になったか…
いや妾は別になんも思っとらんけど……


あなたとお姉さまの子は次のマーサの王の第一の候補となるのです
しっかりしてもらわなければ困ります!
!!
いちゃ♡
いちゃ♡
あ マルス様お帰りなさいませ♡♡♡
サフィラの言ったことは気にせんでよいぞ
なんだったんだ? いきなり……
サフィラは未だにお主と妾が初夜を迎えていないことを怒っておるのじゃ


お主との子が次のマーサの王か……正直妾もそこまで考えておらんかったの
しかし安心せい
子が出来るようなことがあればふたりの子としてきちんと育てる
それが将来の王であろうとなかろうとな
そうか…当たり前だけどそういうことも期待されるんだな
跡継ぎを作るっていう……
しかしそれも深淵王を倒した暁の話じゃ
まずは世の平穏を取り戻すことが先決じゃからな
…ん？
そういえばヒメ以外みんな人間とちょっと違う種族だけど
子供の人種はどうなんの？やっぱり混血？
母親の特徴を受け継ぐことがほとんどじゃなぜかは知らんがの
そうなのか…

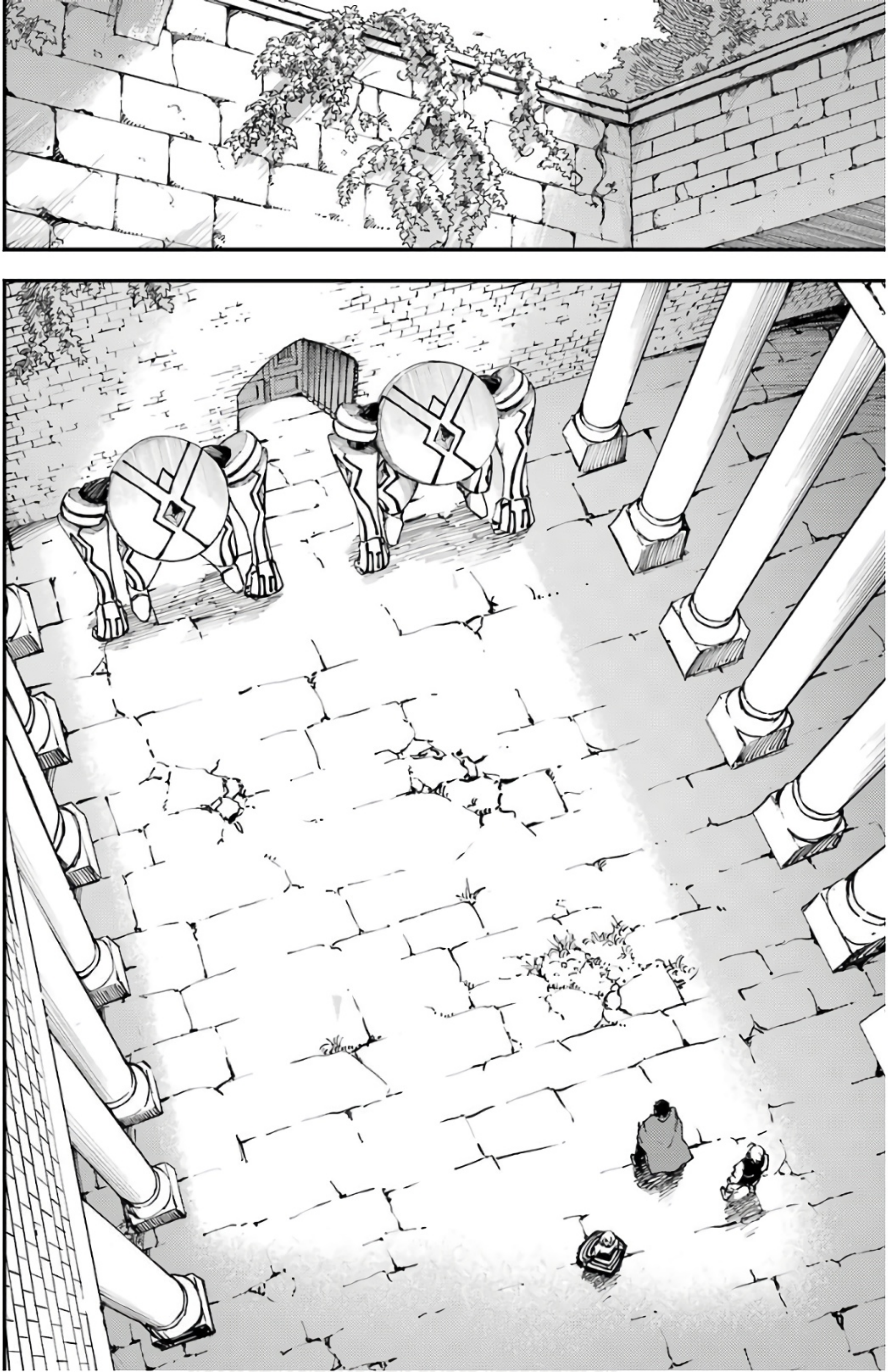

まぁ あまり
心配せんでもよい
正直なところ
妾は
サフィラとマルスの子が
マーサを継ぐべきだと
考えておる
さて皆のもの
明日の手立ては
問題ないか？


明日は
帝国の式典があるから
周囲に見回りの兵も
少なくなる
遺物庫の門番には
2体のゴーレムが
いるだけ
とは言っても
ゴーレムは
しぶとさが売り
指輪王の力があれば
強行突破は可能
なるべく…
騒ぎは
大きくしたく
ないな
あまり派手な
戦闘があると
さすがに気付かれて
しまうでしょう
穏便に済むと
いいのですが…
本当に大丈夫
なのですか？
アンバル姫
指輪王なら
余裕
自信
まんまん
すぎる…



小さいことは
気にせず
とっとと行って
ぱーっと片付けて
さっさと
おさらばすれば
よいのじゃ！
コホン
帝国との関係を
考えれば
どんな小さな騒ぎも
あってはならん
なるべく穏便に
済ませなくてはな
明日は僕と
サトウくんと
サフィールと
アンバル姫で
遺物庫に向かいます
アラバスタ様と
サフィラは…
万が一のことに備えて
ここに待機していて
ください
ひとつ
提案がある


じぃ――…
じぃっ…
え……
なんじゃ？
わらわ………
……？




ゴーレム…
失われたはずのイダノカンの魔導兵器
指輪のことはまるで信用していないのに
魔導兵器に扉を護らせるんだな
使えるものは使うそういうことだろう
全くこっちに反応してないように見えるけど
本当に攻撃してくるのか？
近づけば扉を護るために必ず動き出す


なんとか…するしかないか
指輪王
ゴーレムは土の魔素によって出来ている
すべての魔素を統べる指輪王の力があれば
その意志で制御可能なはず
自信を持って
あなたにはその資格があるのだから


聞け…ゴーレムたちよ
俺はサトウ
異界より来る新たなる指輪王だ


王の名に於いて命ずる…
我に従い道を開け!!!




ドォォォン！
ざわ…
ざわ…
今なにか聞こえなかったか…？
遠くで大きな音がした気が…
おいあれを見ろ！
………


あれはマーサの竜神だ!!
我々の出立を祝いに来てくれたのか!
なんで妾がこんなことを…
万が一のために気を引く役目をしてほしい
ざわ…
ざわ…ざわ…
後は任せたぞ


アンバル…
全然通じてないじゃないか!!
ゆーっ!!


ガキィ
こうなったら仕方ない…
やるしかないか…!?


ピタ……
止まった……？
アンバル!?


結局…アンバルが止めたのか…？
うん良いオトリぶりだった
俺はなんて無駄に恥ずかしいことを…
決して無駄ではない
指輪王の言葉に明らかにゴーレムは反応していた
その隙があったから簡単に止めることが出来た
あんな台詞言う必要なかったけど
がっくし…


さて…
ゴーレムは止まったけど扉は閉ざされたまま…
勝手に開くとは思ってなかったけどどうしたもんか…
特殊な扉だけど今の指輪王なら簡単に破壊出来る
いやいや…
せっかく穏便に進んでるのにそんなことしちゃお終いだろ…
そこは良い感じに力を調整して…
スタ
スタ
扉なら問題ないよ
実は兄に頼んで鍵を父の部屋から持って来てもらってたんだ
鍵を…？
承知した…
父の考えはさておき指輪王には協力したいと
あのお兄さんが!?
見かけによらずお兄さん良い人だな
えっ？


ガルコ……
開いたよ




すげえ！
なんか役立ちそうな物がたくさんあるぞ！
これなら指輪王の剣も…
どこかにあるかもしれないね
………
どうした？アンバル
ここにあるものには微かな魔力しか感じない
恐らくは…


…そうだ ここにあるものは すべて紛い物
それらを封印するために
この部屋はあるのだ


じつはその…わたしのお腹にはもうマルス様との子が……
!?

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


第50話
…なんでここに皇帝が!?


サフィールの陽動はどうなってるんだ!?
状況から見て失敗した可能性が10割
そりゃそうだ
愚かなことだ
本懐を知らせた上で陽動などと…
兵を連れていればどうするつもりだった
指輪王の力なら殲滅は可能
物騒すぎるだろ…


ザッ
‼
俺にはもっと力が必要なんだ
指輪王の剣
使わないなら渡してもらう


よかろう
!!?
くれてやると言っている
来い指輪王


こそ
こそ
信用出来るのか?
ついて行ったら兵隊だらけなんてことは…
すまない完全に予想外だ
父は指輪王とその伝説を目の敵にしていると思っていたけど…
ここにあるものを収集するのには
多くの時間、人、資産を費やした
だがそのどれもが役に立たぬくだらないものばかりだ



…だけど
指輪王の剣は本物なんだろ?
本物……か…
ここにあるすべては〝本物〟だ
南国に伝わる万物を断つ剣
伝説の剣聖が用いた深淵すら切り裂く剣だ
確かに優れた刃物だが…
実際は今の鋼に遥かに劣るただの骨董品だ


それは魔法はじきの盾
古の王国で生み出されたあらゆる魔法を打ち消す無敵の盾と言われている
確かに魔法は打ち消すが
それは使い手の魔力が相手を上回る時だけのこと
強者に立ち向かう物ではなく弱者を嘲るための道具よ
深淵王に太刀打ち出来る代物ではない
あの魔導兵も同じだ
無双の強力だが術を知るものには容易く指揮を奪われる
伝説の真贋を問わず
すべて…役に立ちはしなかった
…‼


これが…
指輪王の剣!?
深淵王との決戦の地ヴァーンナーの調査でただ一振り見つかった物だ


錆びてるのか…
これ……
伝説の上では驚異の力を持つとされた紛れもない本物…
その実体がこれだ
伝説の品などその程度の物
とはいえその目で見るまでは信じるまい
そういう人間だお前は
安易に他者の言葉を信じず引き下がらぬ
愚かだがそれも力だ


確かにこの剣には
なんの力も感じない
恐らくは
朽ちる前から
そうだった
カツン
カツン
カツン
カツン


………
その剣は…？
これは…
ノカナティカ王家の剣
…！


そして…
我が友の形見であり
私の戒めだ
少年よ
守りたい物があるのならば聞くが良い



ギサラスはノカナティカを守る剣の国
王は我が守るべき主
そして共に学び歩んだ…
無二の友だった
十年の昔ノカナティカは魔物の襲撃を受けた
誰もがおとぎ話だと笑い信じずにいた
深淵の魔物の襲撃だ
狙いは指輪と
幼子クリストル
王は指輪の力を頼りに単身渦中へと飛び込んだ
我らも市街を守り戦ったが…
幾たびも迫る魔物の群れに剣は折れ鎧は砕けた
光の魔法と指輪王の加護を信じた王は……
しかし魔物と命を引き換えに
死んだ


指輪王の伝承は誰も救いはしなかった
深淵との戦いに必要なものはより確かなものだ
人、国家、武力すべて実在し人々の力となる
お前はその指輪の力を自分の物に出来ているか？
更なる力があるなどと希望に縋ってはいないか？


この世界は深淵から生まれた世界だという……
深淵王は世界を深淵に沈め元に戻そうとしている
賢者の幾らかが言っていることだ
…もちろんアラバスタも知っている
…なんで
じいさんは黙ってるんだ？
知らぬな
だが正体の分からぬものに喰われてやる理由も無かろう
アラバスタのことを信用するな
企みはないだろう
だがやつは光の王夫婦を失い深淵に心をえぐられた者の一人だ
人の力を信じることが出来ず指輪王の伝説に縋っているにすぎない
いつか足下の道を踏み外す


はぁ〜〜〜
ここまで来るのもひと苦労だったたのじゃ……
――って皇帝がなんでこんな所におるんじゃ!?
……
指輪王よ
お前が外の世界から来たのならこの世界の道理に従う必要は無い
己の知るものを信じろ
あるいは誰も知らぬ道を進むことが出来るのかも知れぬ


ここでの話を覚えておくと良い
必ずお前は道を見失う時が来る
あのっ…
ヒメの…父親の剣なんだろ
この剣を貰っていって構わないか?


…構わぬ
この遺物庫にあるものすべて
お前たちの好きにすると良い
あのハゲ何しに来よったんじゃ？
あの人なりに…
僕たちのことを考えてくれているんだろう

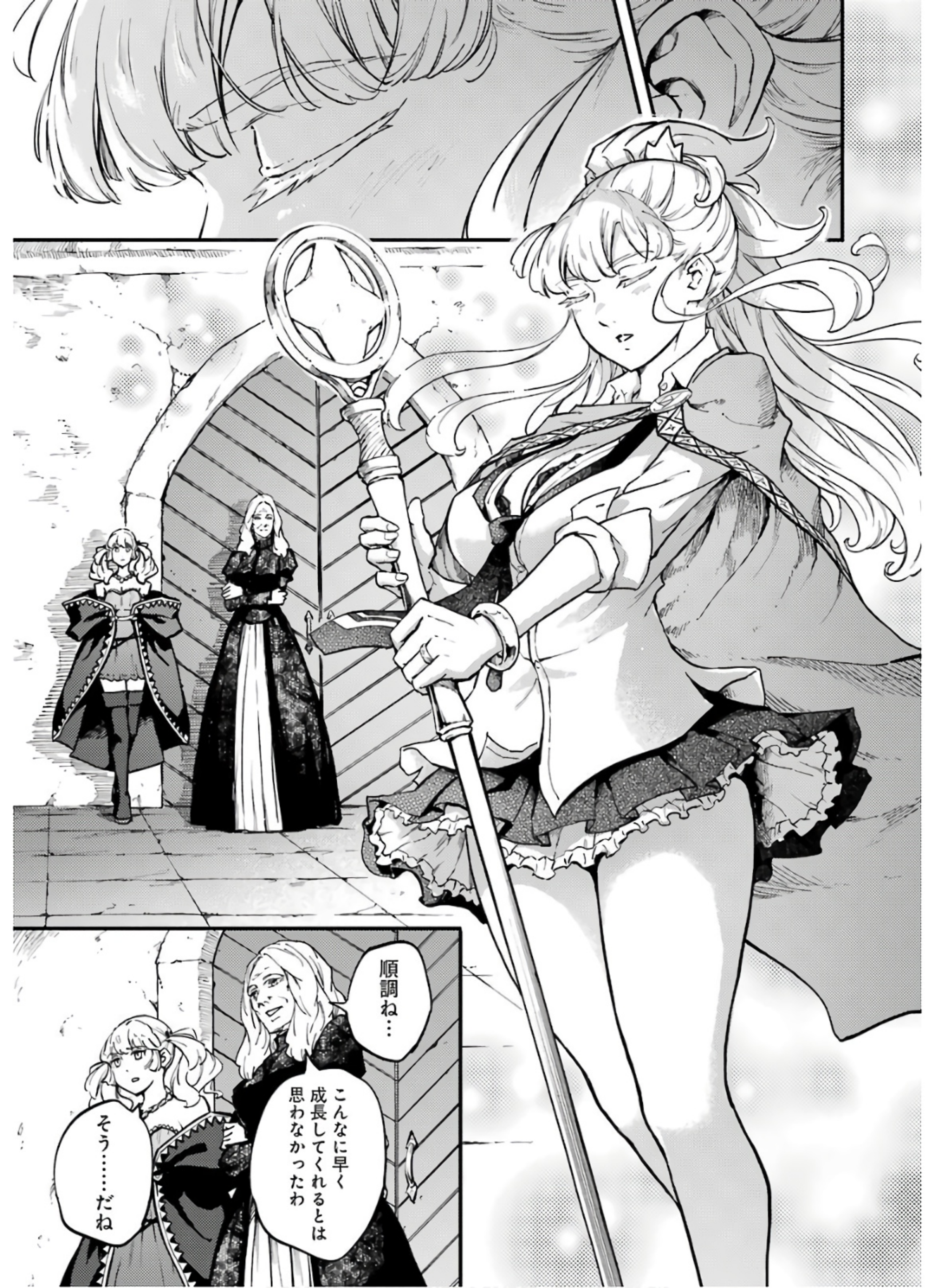

そうか…
指輪王の剣は
ダメじゃったか
しかし
懐かしいものを
手に入れたのう
その剣は
王家に伝わる
特別な剣
聖剣とは
いわんが
光の魔力を
込められた
破邪の剣
サトウくんの助けに
なってくれるだろう



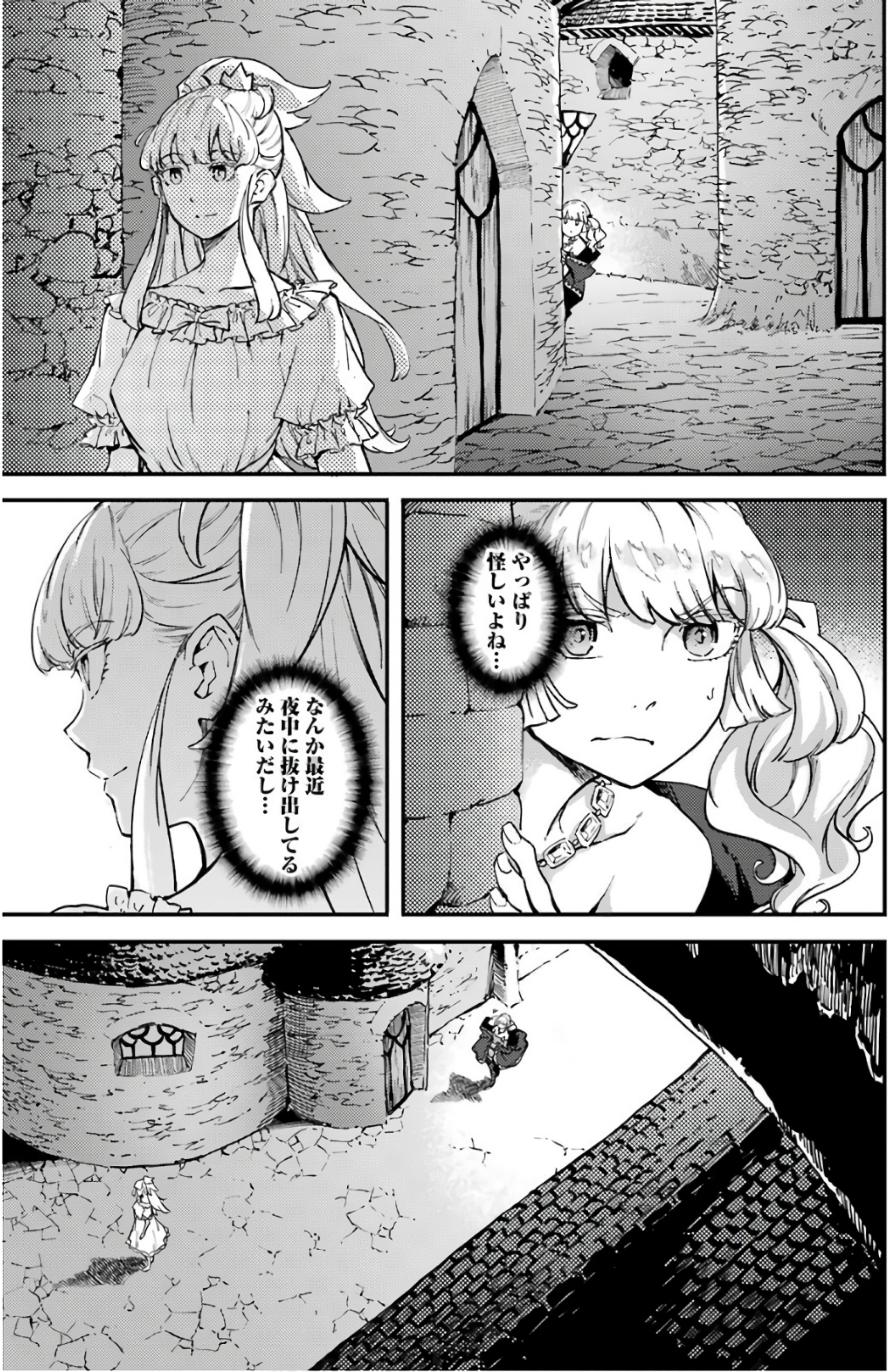
僕はこの剣を頂戴(ちょうだい)したよ
げっ…その剣は!!
大丈夫 あの時みたいな人を操る力はもう無いよ
だけど魔力を捩じ曲げる力は健在だ
きちんと直されて遺物庫に保管されていたみたいだね
ふむ…
目的の物は手に入らんかったが仕方あるまい


それでも
収穫はあった
わけじゃしな
そうだな…
よし
わしらも
クリストルらを迎えに
魔導の尖塔に向かおうか
ああ…
帝国を
訪れておいて
良かったよ
なんだか…
気持ちの整理が
ついたっていうか


…なんかあやつ変なテンションになっとらんか？
真面目な話を聞きすぎたのでは…
そんなことはない
指輪王としての責任に目覚めた
これは喜ばしいこと
ふくむ……
そういうもんかのう……


順調ね……
こんなに早く成長してくれるとは思わなかったわ
そう……だね


でもなんかおかしくない？
お姉ちゃん魔力はあったけど
使い方はホント素人だったんだよ？
ふふ…優しいですね　お姉さんのことをモーリオン
気遣って…
つっ
いやいやそうじゃなくって！
確かに気にはなりますね……
しかし力を得ているのも事実
何事も無いのならこのまま見守ることも……
……


やっぱり怪しいよね…
なんか最近夜中に抜け出してるみたいだし…


ばっ
…やばっ！
そろーーり…
誰かと話してる…？

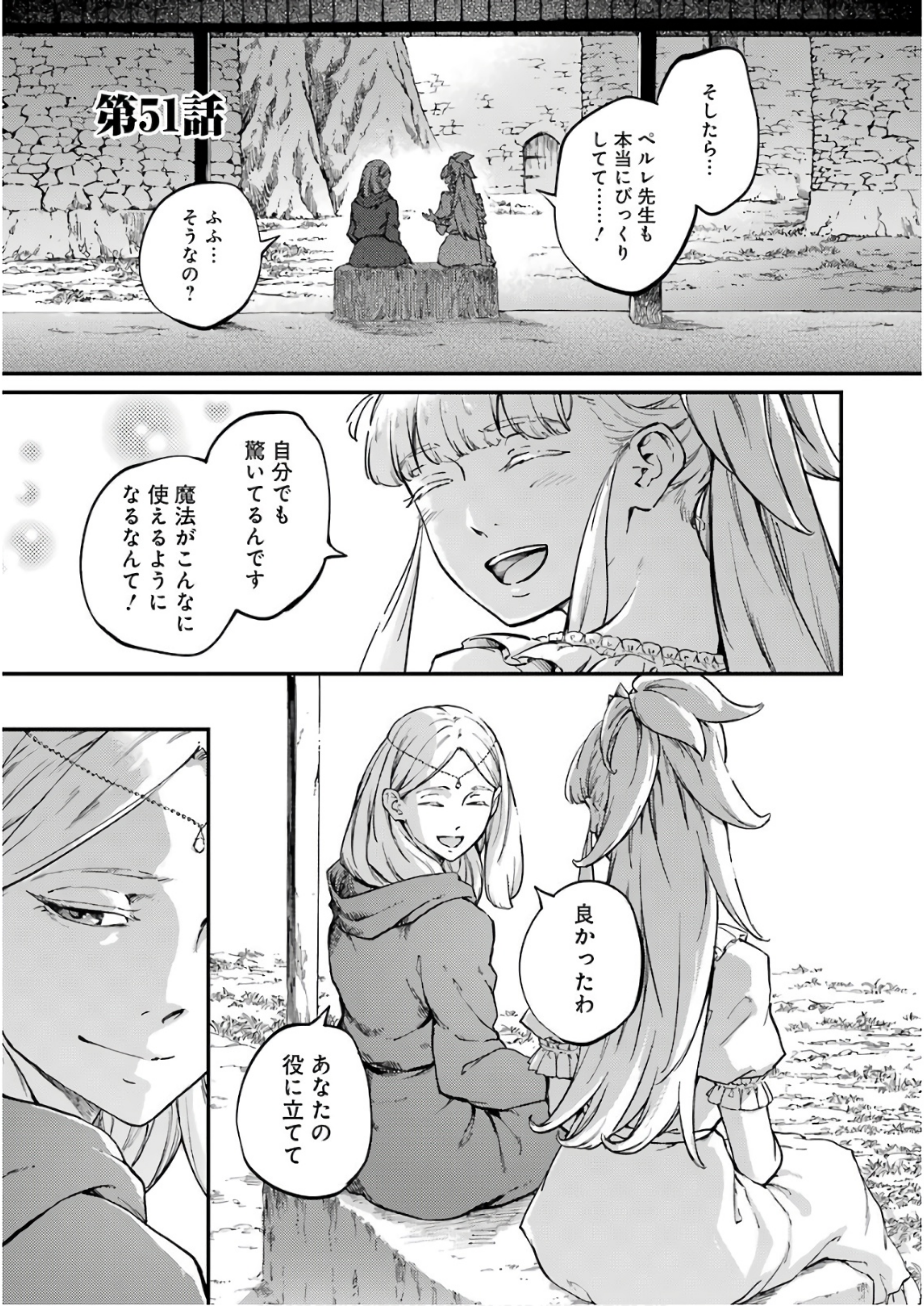



なにアレ……
まさか…深淵の!?
なんでお姉ちゃんが……!?
最近の様子……やっぱりおかしかったんだ!
早く先生に知らせなきゃ!!


なんか
マルスさんの
趣味って……
フフフ…
いや
まさか…

結婚指輪物語

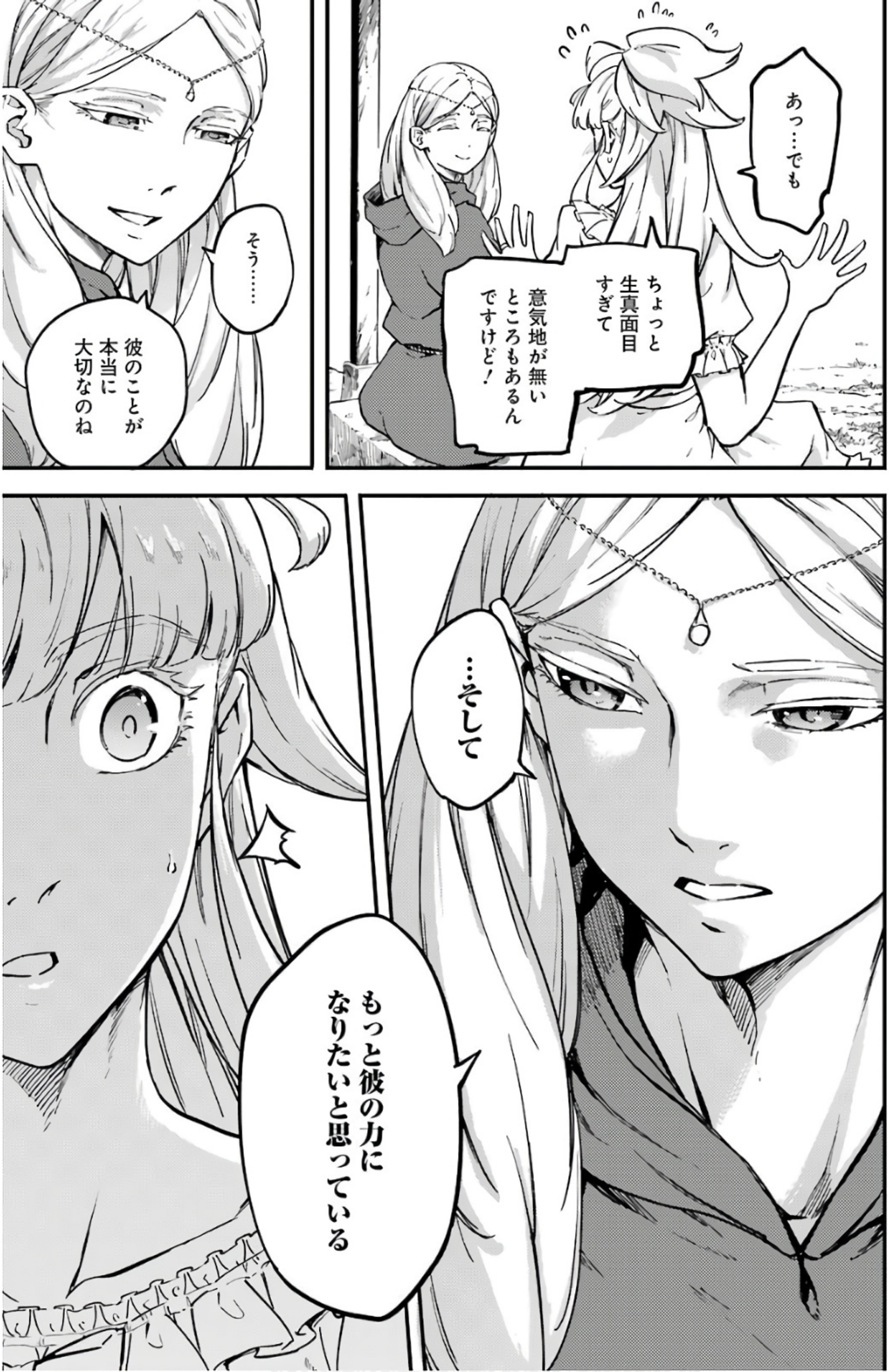
TALES OF WEDDING RINGS


第51話
そしたら…
ペルレ先生も本当にびっくりしてて……！
ふふ…そうなの？
自分でも驚いてるんです
魔法がこんなに使えるようになるなんて！
良かったわ
あなたの役に立てて

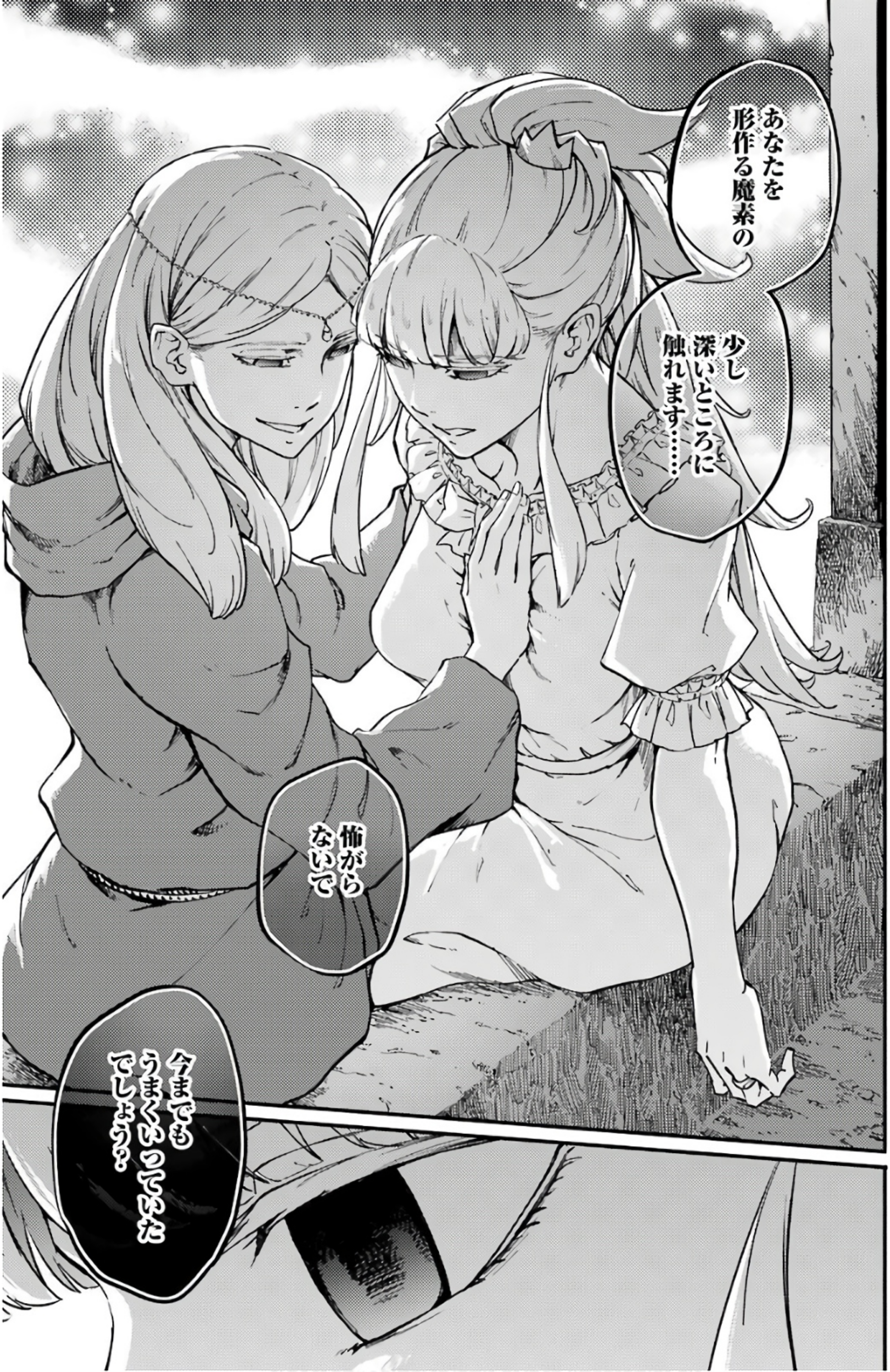

トトトトトトト…
？
どうかしたんですか？
ううんなんでも
……
ねぇ…
聞かせてくれる？


あなたの
好きな
人のこと
ええつ?!
強い想いは
魔法の力になるわ
良い人が
居るのなら
その想いを力に変える
手助けが出来るかも
知れないから
それに
単純に
興味があるの
えぇーっ…
えっと……
わたしの
好きな人は……
今の指輪王で…
ふふっ
良いことね
愛してる人と
結ばれているなんて


彼はとても真っ直ぐなひと
どんなことでも諦めずに
ひたむきに頑張れる
そんな彼が全部を捨ててここに来てくれた
どんな時もわたしのことが一番だって……
いつもそう
わたしなんかのために……


あっ…でも
ちょっと生真面目すぎて
意気地が無いところもあるんですけど！
そう……
彼のことが本当に大切なのね
…そして
もっと彼の力になりたいと思っている

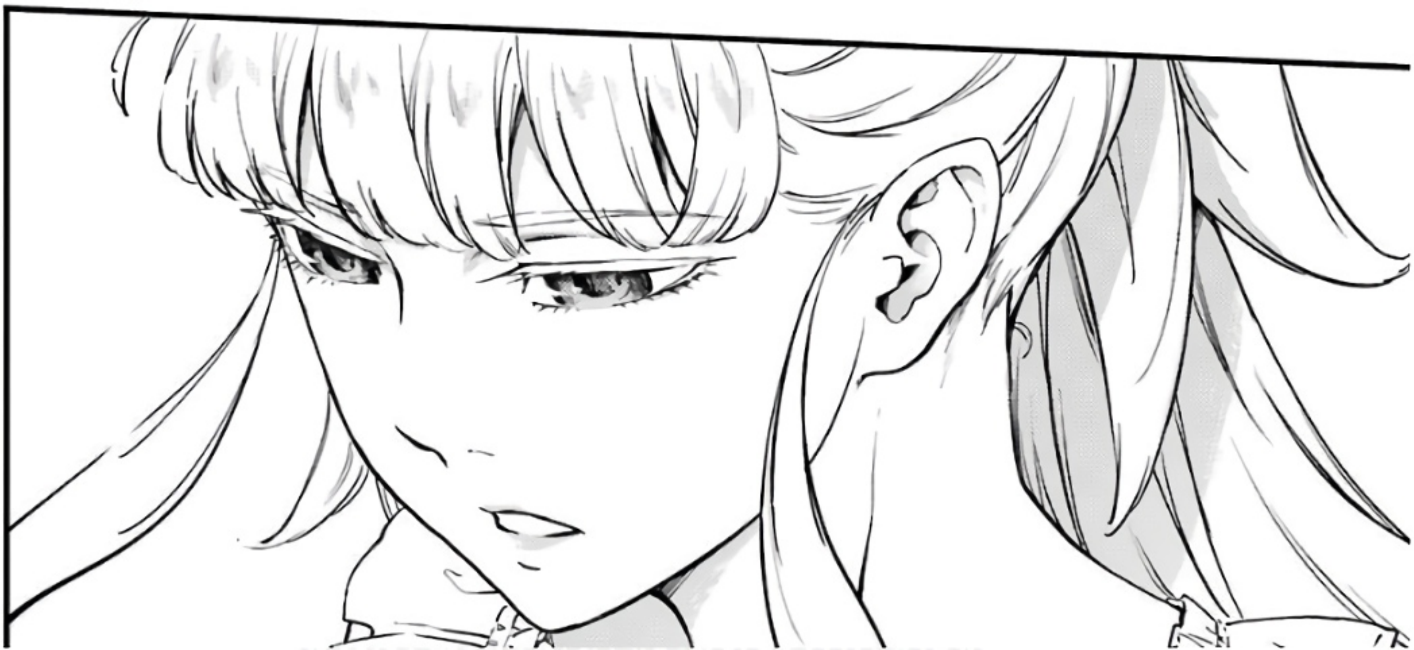

わたし……
もっと魔法をうまく使えるようになりたい！
わたしのために頑張ってくれてる
サトウのために…
ならわたしの言うことをよく聞いて……
わたしを信じて
わたしに心を開いて


あなたを形作る魔素の
少し深いところに触れます……
怖がらないで
今までもうまくいっていたでしょう？


彼のためにも
わたしを信じて
…はい


カッ
カッ
闇が人の形を……!?
それは恐らく深淵の徒……
魔物ってこと!?
いいえ…魔物とは異なる何者か
魔物を形作るほどの深淵の魔力ならば感じ取れるはずです
しかしそれではいったい…
先生急いで!!






サトウ！




そう…
怖いのね
あなたも彼も
関係の変化が
周りを変えてしまうと
恐れている
もっと
我が儘で良いの
魔法は世界を
思うままに
変えてしまう力
だからもっと
自分の望みに
素直になって
心を開いて
あなたの中にある
暗い淵を覗いて…
欲望を見せて
そんなの……
わたしには…

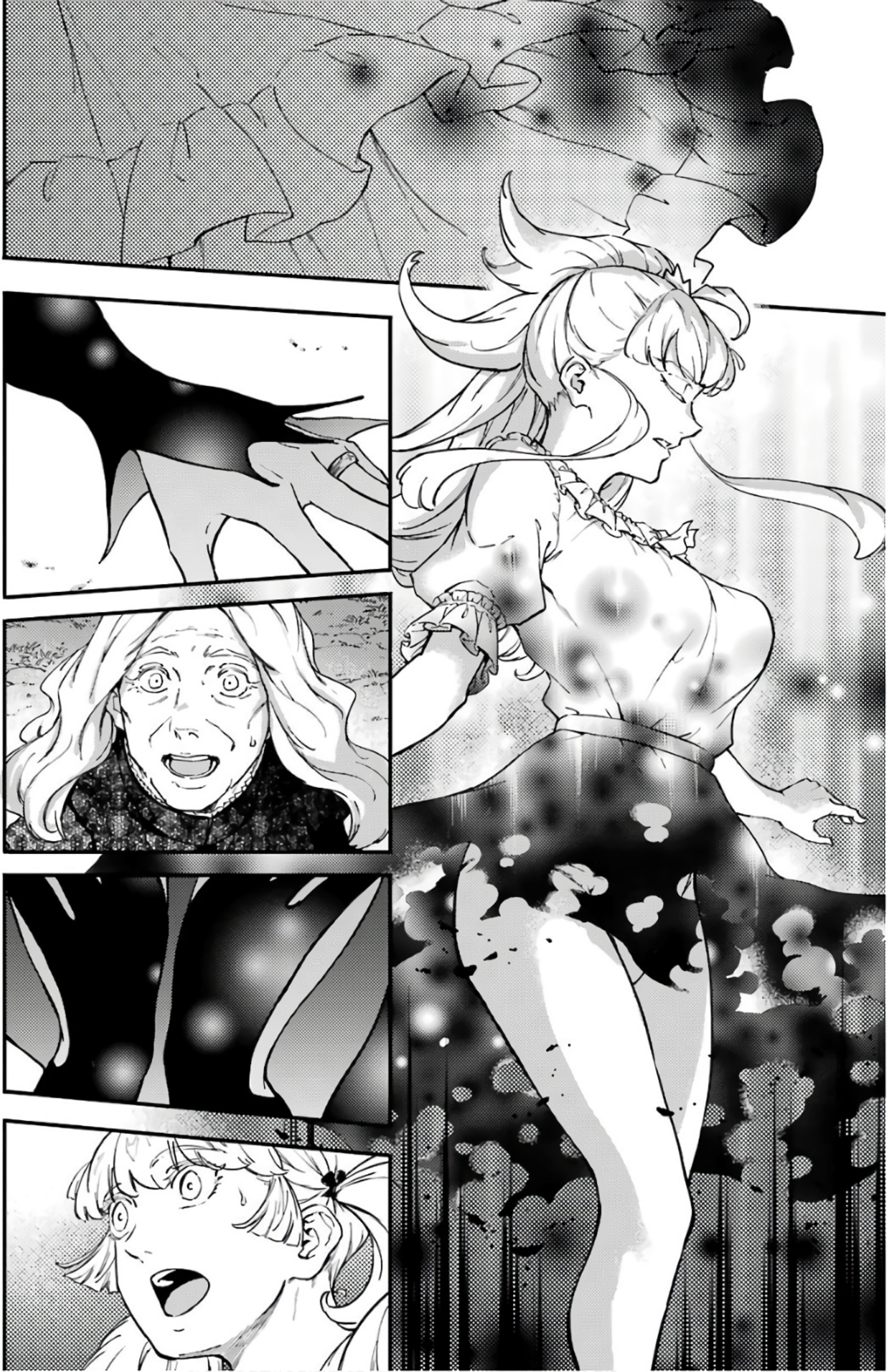

深淵は
有を無に帰す流れ
光は
存在を生み出す力
どちらかが善で
どちらかが悪では
ない
いずれもひとしく
この世界の理の一部
あなたもその一部
あなたにも
あるわ
闇の心が…



あなたが欲しいのは？
…サトウ
サトウと……ふたりきりの…
そう 彼がいれば すべて要らない
指輪の姫も この世界も なにもかも…
それが あなたの欲望


まさか…お姉ちゃんがあの中に⁉


風の魔法を
使います
はい！
!!
お姉ちゃん!!



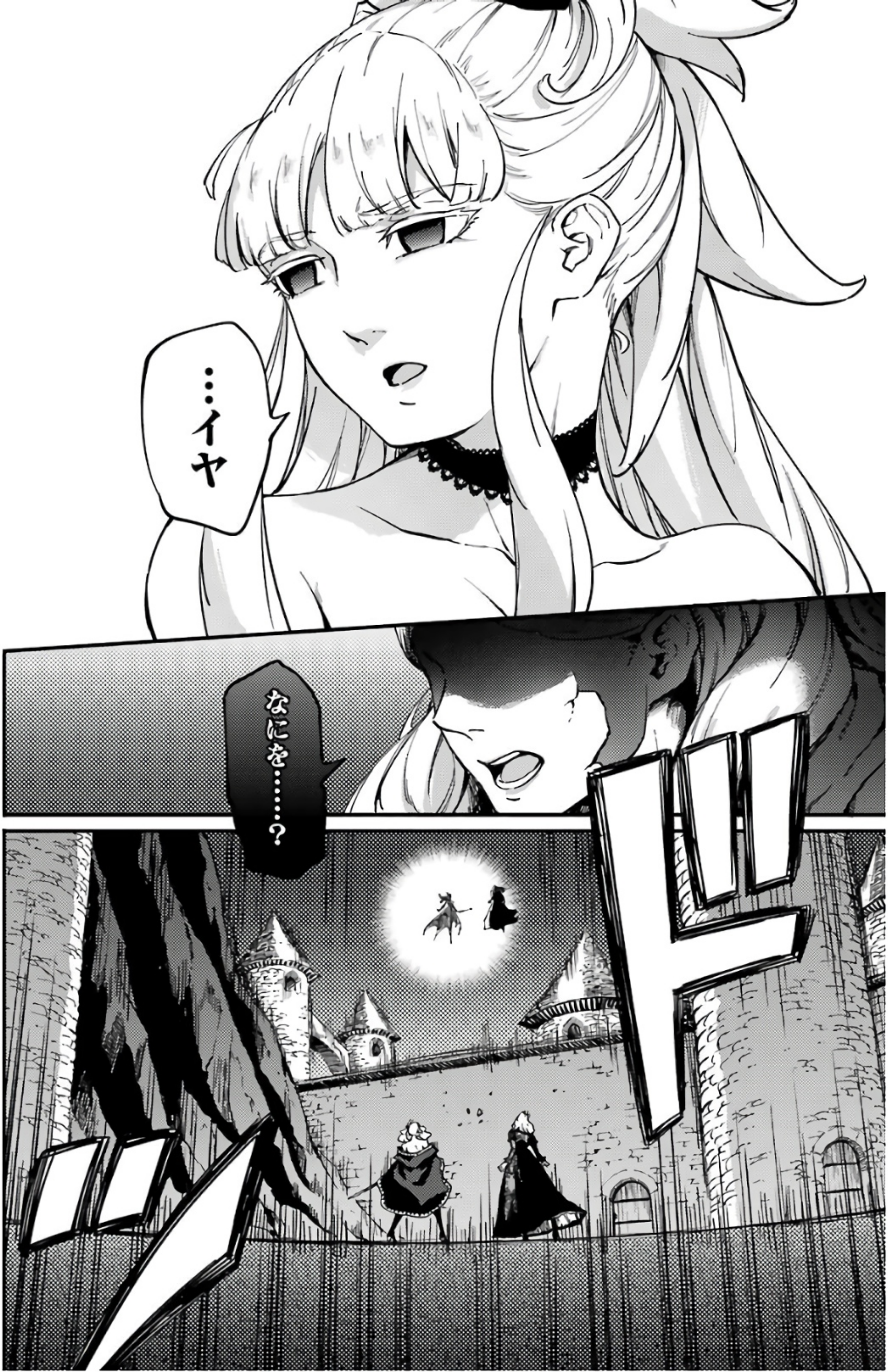



ぱしっ


なんという
こと……


フフフ…
さぁ…良い子ね
わたしと共に深淵王様のもとへ向かいましょう
お姉ちゃん…
クリストル!
目を覚ますのです!
さぁ…
深淵のもとへ





……イヤ
なにを……？
ド
ッ


なんですか…
この魔力は……!?
ゴゴゴゴ
ゴゴゴゴ…

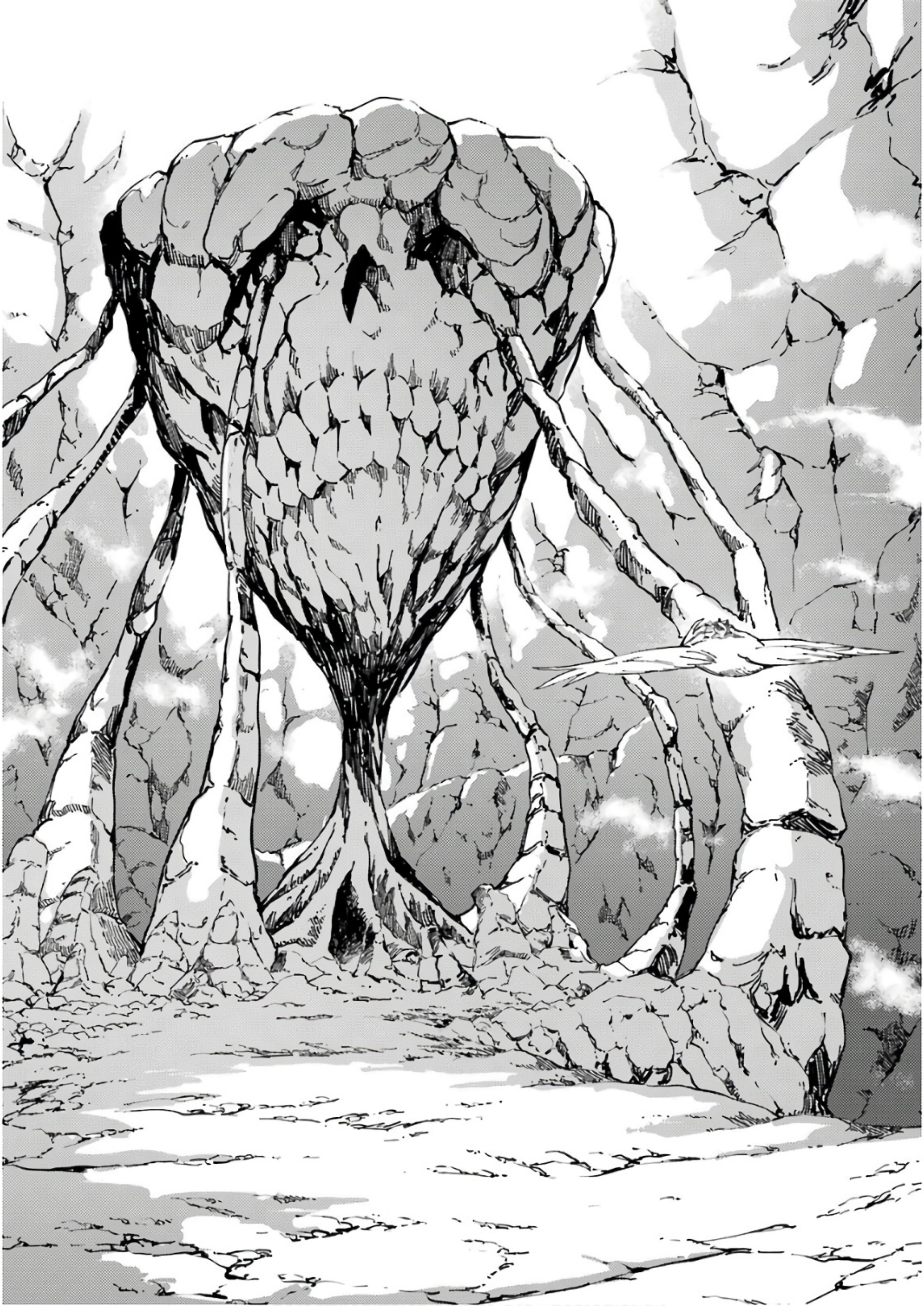

ドドドド
ドド
ドドド
ドドドド…


尖塔が……作りかえられていく……

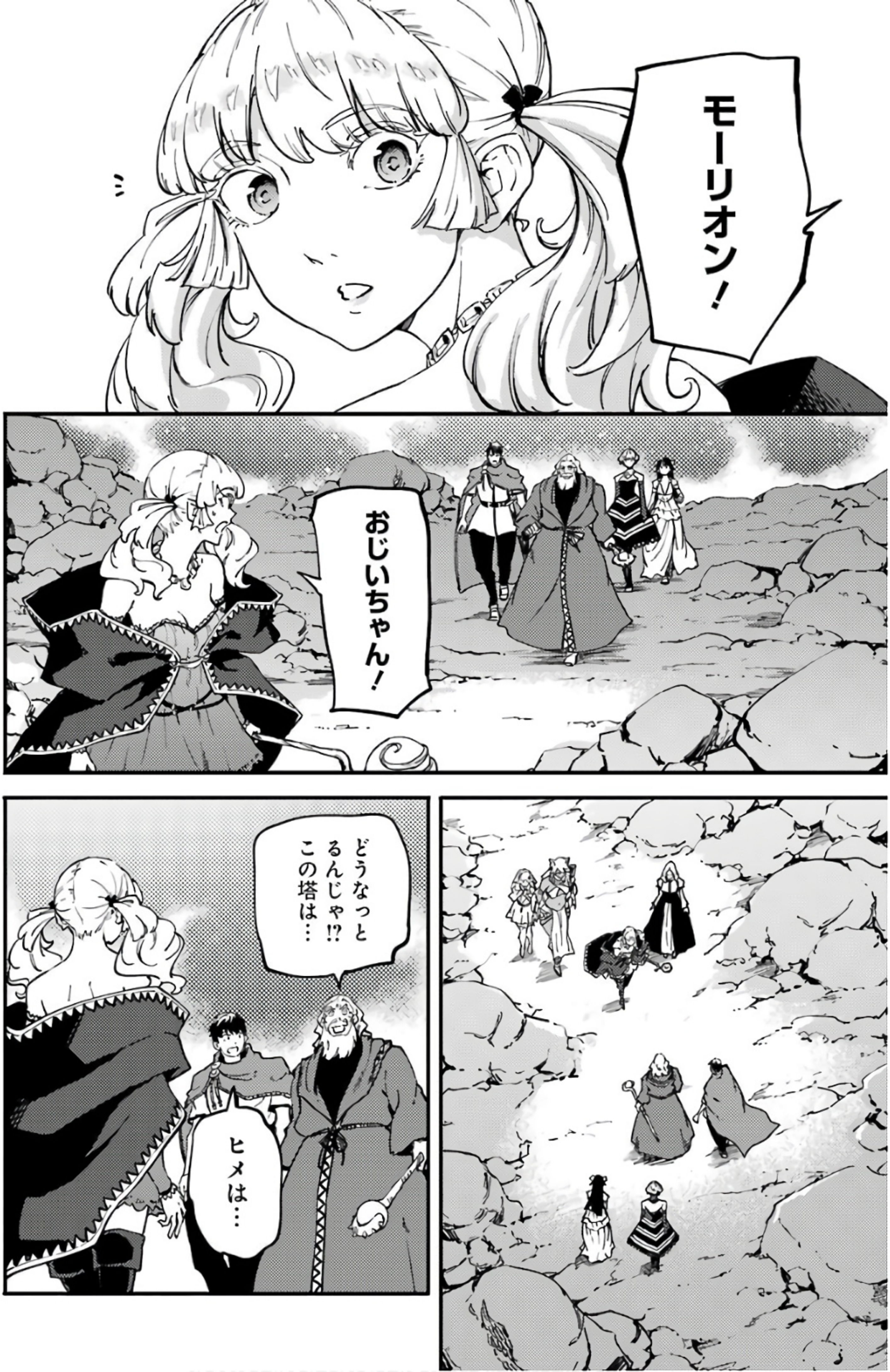

ヒメの修業はもう終わってるかな？
どうかのう…
そう簡単にはいくまいて
クリストルのことじゃ
はよサトウくんに会いたくて毎日そわそわしとるに違いない



なんという
ことじゃ…
どうした？
じいさん!!




なんか…思った以上に邪悪な感じだな魔導の尖塔……
そもそも尖ってすらない…
そうではない…
!?
塔の形が…
変化しておる！


モーリオン！
おじいちゃん！
どうなっとるんじゃ!?この塔は…
ヒメは…


ヒメはどうした!?
お姉ちゃんなら……
あの塔の中だよ
!!
そして……


お兄さんのことを
あの塔の中で待ってる
サトウ……
はやくわたしと
ふたりきりに
なろう
結婚指輪物語9　おわり


あなたたち姉妹は
どうしてあんな
ふしだらな恰好
ばかり!?
なんで

『結婚指輪物語』9カン あとがきページ!!

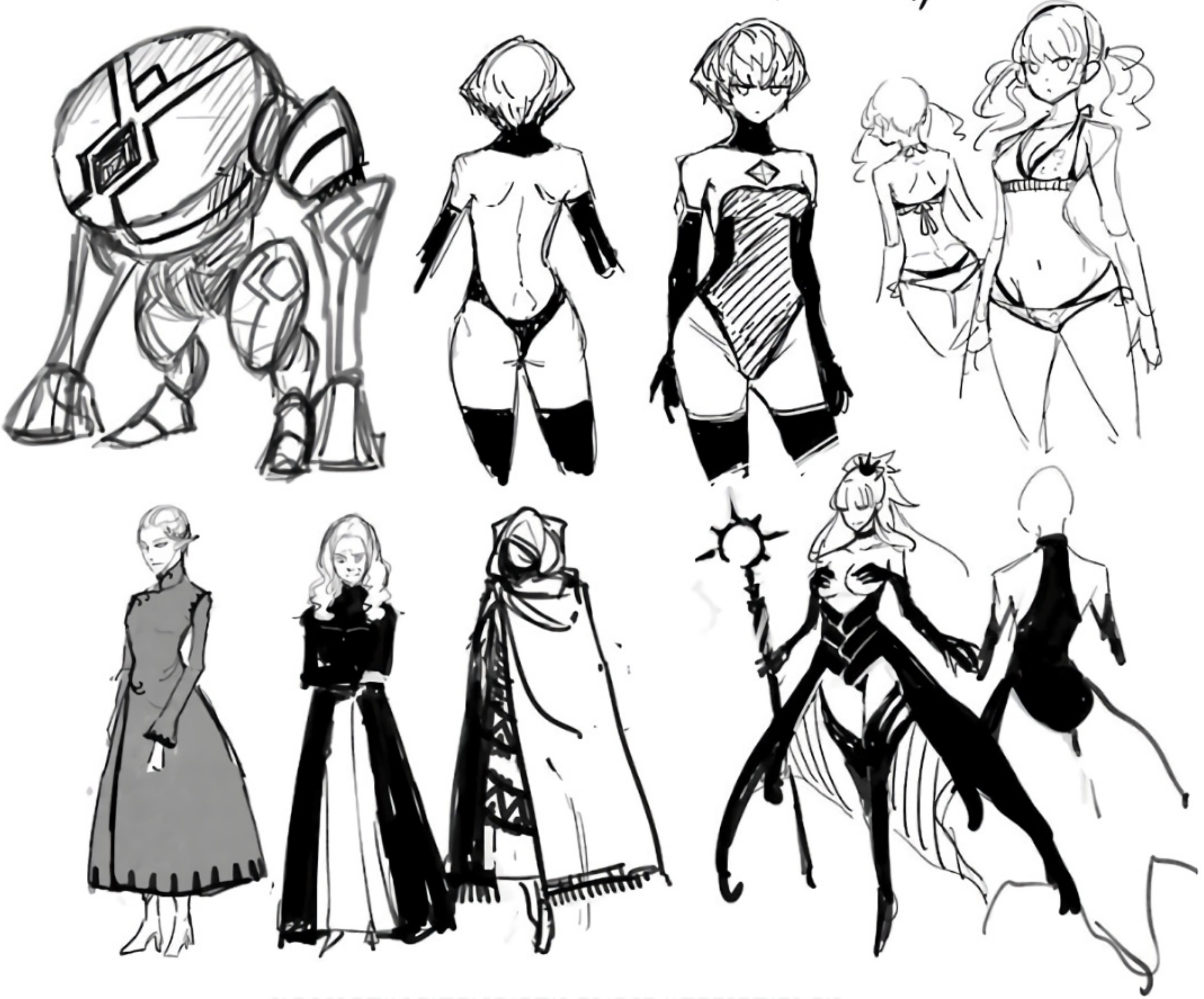


しばらくの間お話が停滞してしまっていたので、
今巻はしっかりとお話を進めることを中心にしました。
最後に向けてやるべきことをしっかりやっておこうという感じですね！

最後に向かうということはサトウ君もいよいよ腹を括らねばならぬということで、
次巻はいよいよ…な展開があると良いですね。たぶんあると思います。
やるべきことはしっかりやってもらわないと困る……
その為に今まで頑張って来たんだから！

それでは、次の１０巻もお楽しみに!!!

めいびい



アーヌルス博物誌

帝国ギサラスは指輪王より後の時代で最も繁栄を遂げた国家である．古い時代，信仰篤い民衆は光の指輪の加護を求め光の国ノカナティカ近くに複数の集落を築いていた．また同じくして，指輪の力に魅了された野心ある者たちも寄り集まり，指輪を手中に収めようと暗躍していたという．やがて民衆の中に，光の指輪とノカナティカ王家を守らんとする者たちが現れた．彼らは剣を持ち，集落の人々を集め，ノカナティカの守護国を築き上げたのだという．それが現在の帝国の元となったと語り継がれている．帝国はその出自ゆえにいまなお剣の国，騎士の国と呼ばれている．指輪王の騎士たる火の国と似通った由来ではあるが，こちらはより近世に生まれた国であり，その歴史は浅い．一方でノカナティカ王家との繋がりはとても深いものである．宗教国家としての側面が強いノカナティカは経済や軍事の面で制約が多く，くびき無くそこを補える帝国とは二つで一つの兄弟国とも言えるだろう．結果的に帝国はノカナティカよりも遙かに優れた経済力を持つ事となり，本来の主たるノカナティカを実質的には支配していると目される事が多い．

特に当代の皇帝は，他国との関係の強化，同盟と支配を推し進めた事で知られている．とはいえ武力による支配ではなく，資金人材の提供や軍の往来などの協力を取り付ける代わりに保護を約束するという物である．傲慢かつ不均衡な条件に反発こそ多いものの，人々の力を一つにまとめ深淵に対抗しうる勢力を作り上げた点は評価に値するだろう．

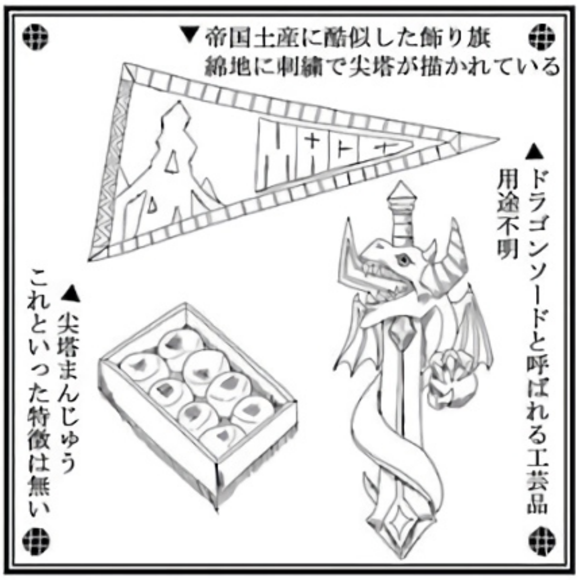


人々が集まる事で帝国には新たに様々な需要が生まれた．職業，住居，食料．それらのうちで最も大きな需要が土産物である．帝国はこれといった特徴の無い平原と丘陵の土地であり，旅人を喜ばせる特産品は皆無．そこで帝国の人々は知恵を尽くして新たな土産物を考案したという．しかしやはり，どこにでもある物で特徴を出すのは難しい。帝国土産といえば「もらって落胆　食べて平凡」「愛想笑いの生みの親」などと揶揄される結果となっているようだ．

食を見て国を識る．「帝国で食えぬ名物なし」とは世界と繋がる帝国の食の多様性をあらわした言葉である．少々大げさな物言いではあるものの，多様な人種と文化を受け入れた帝国には確かに様々な食があふれている．しかし，その中には帝国特有の奇妙な物も多い．その一つ，ニーダキッタヌードルは火の国伝来の香辛料を使った温かい汁の麺料理である．ニーダキッタ名物と称して帝国で広く販売されているものではあるが，なんとこの料理，ニーダキッタには存在しないのである．一般的に猫人は熱い汁物を好まず，それゆえに火の国のスープ料理はおおむね生ぬるく，麺料理は汁気の無い炒め麺が好まれる．帝国の料理人がニーダキッタ風と称して想像任せに適当に作り上げたものがこの料理の正体なのだ．獣肉と小麦団子を用いた偽シー・スーやロムカ風エルフサラダなど，イメージ先行の雰囲気ご当地料理は数多く見られるにもかかわらず，その奇妙さを指摘する者はほとんどいない．多くの地方出身者が混在する帝国においては誰もが少数派であり，声を上げても広く影響を与えられないためである．なお，地方には帝国に関する名のつく料理がいくつか広まっている．皇帝焼きや帝国汁などはよく知られたところではあるが，これも同じくそのような料理は帝国には存在していないのである．

魔導の尖塔は数百年の歴史を持つ魔法使いたちの修練の場である．この塔は魔法中興の祖とされる賢者バサルトによって拓かれたと伝えられており，魔法の独占を望まず技術と知識を共有することで魔法技術の進歩を目指した彼の信念をいまなお受け継いでいる．また，素養や信念の足りぬ者が魔法の力に飲まれぬよう警戒と監視を行う自治組織としての側面も持つ．長い歴史においては権威主義者の箔付けに利用されたり，寄付金の多寡で入門を許されたりと堕落もあったが，いまは国家を問わず魔法の才あるものが集う場としての復活を遂げている．ただし，魔術体系は種族によって異なり，塔に集う者のほとんどはノカナティカや帝国の人間である．

宗教や国政とは距離をおいてはいるものの，魔導の尖塔は開祖バサルトの教えに従う宗教都市としての側面を持つ．塔の魔法使いの多くは研究に没頭する日々を送るが，その粛々とした生活は確かに修行僧のような厳かさを感じさせる．周囲の村々からも，ありがたい僧侶の集う場所とみられており，ご寄進として野菜や家畜が持ち込まれることも多い．また，尖塔の独特な外見から観光地としての人気も高まりつつあり，計算高い近隣住民が勝手に非公式土産を作り販売するなどの問題も起きているという．




NEXT
深淵の徒に誘われ
闇に囚われてしまったヒメ…。
サトウは
大切な人を
救えるのか!?
結婚指輪物語
TALES OF WEDDING RINGS
作：めいびい
第10巻 乞うご期待!!

デジタル版　Ver.1.00

ビッグガンガンコミックス

結婚指輪物語⑨

著者／めいびい

©2020 MAYBE

2020年 5 月25日　Ver.1.00発行

発行所　株式会社スクウェア･エニックス

担当編集　小泉浩志・長岡徹郎

装幀　阿閉高尚

初出／月刊ビッグガンガン2019 Vol.07、Vol.08、Vol.10～2020 Vol.05

<ページ抜け・誤植・内容についてのお問い合わせ>
スクウェア・エニックス　サポートセンター　http://sqex.to/jp_manga_support
<ビュワーの不具合・再ダウンロードできない等、販売に関するお問い合わせ>
本作品を購入された電子書籍書店のサポートセンターにお問い合わせください。
この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには、いっさい関係ありません。
本作品は、作品のオリジナリティを尊重し、台詞や表現を発表当時のまま収録しています。
あくまで作品世界の中での表現であることをご理解ください。
また、各種情報や表示価格などを単行本発売時のまま収録していることにより、
その後の情報と異なっている場合があります。
本作品の内容の一部あるいは全部を、著作権者、出版権者等の許諾なく、
転載、複写、複製、公衆送信（放送、有線放送、インターネットへのアップロード）、
翻訳、翻案等を行うことは、著作権法上の例外を除き、法律で禁じられています。
これらの行為を行った場合、法律により刑事罰が科せられる可能性があります。

EXTRA CONTENTS ‼ カバー折り返し



めいびい
MAYBE

色々ありましたが、わたしは元気です。

※コミックス発売時のカバー折り返しを収録



※コミックス発売時の表紙 表を収録

EXTRA CONTENTS ‼ 表紙 裏

Tales of Wedding Rings

9

Presented by

MAYBE

BIG GANGAN COMICS

SQUARE ENIX.

※コミックス発売時の表紙 裏を収録

Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

深淵王に対抗する力を得るべく、二手に分かれたサトウとヒメ。
サフィール、アンバルの奮戦で指輪王の剣に迫るサトウに、
皇帝は意外な言葉をかける。
そして魔法修業が進まないヒメは、
助言をくれる謎の女性と出会うが…!?

9

Presented by
MAYBE

※コミックス発売時のカバー裏を収録